

令和3年度

静岡県済生会事業報告書

◆ ◆ 社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部静岡県済生会 ◆ ◆

濟生会 基本原則

社会福祉法人^{恩賜財団}濟生会は、濟生勅語にみられる「施薬救療」の精神を承けて濟生の実を挙げ、社会福祉の増進を図ることを目的として設立された。

以来、全国にわたり医療機関及びその他の社会福祉施設等を設置して定款に記された事業を行っている。

令和3年度 静岡県濟生会 経営方針

濟生会の理念と役割の実践

支部理事会を意思決定機関とし、支部長に幅広い権限を一元化した業務執行体制による機動的かつ効率的な組織運営の下、変化する経済・社会状況や経営環境に的確に対応しつつ、安定した経営基盤を確立・強化するとともに、「施薬救療」の具現化と社会的使命をより一層発揮するため、「第2期中期事業計画」に基づき、その着実な推進に努める。

1 濟生会ブランドの構築のために

「施薬救療」の精神に基づき無料低額診療事業の一層の推進と生活困窮者への支援事業の充実並びに医療・福祉サービスの積極的な推進を図る。国連のSDGsの理念とも合致するこの事業への職員の理解を深め、幅広くかつ積極的に実行することにより濟生会のブランドの確立を目指す。

2 わが国最大の医療・福祉団体としての活動と役割

新型コロナウイルス感染症対応に全力で取り組むとともに、生活に密着した心温まる医療・福祉サービスを提供する。

また、切れ目のない医療・福祉サービスを提供するために必要な医療・福祉の密接な連携に先導的な役割を果たしていく。特に、今後の我が国の医療・福祉分野において最重要課題とされる地域包括ケアの形成に向けて、本支部の有する医療・福祉の資源を効果的に活用し、連携を図る取組みを進める。

3 経営基盤の強化

「施薬救療」の精神の具現化等本支部の社会的使命を果たしていくためには健全な経営を確保していくことが不可欠である。現下の厳しい経営環境の中で、支部を挙げて経営基盤の強化に取り組み、本支部事業の持続的発展に努めていく。

4 行政・関係団体・地域住民等外部との連携・協力

地域における医療・福祉の需要に応えるため、行政や社会福祉協議会等の他団体、さらには地域住民との連携・協力などの仕組みを形成し、地域ネットワークのキーステーションとしての役割を担う。

5 良質な人材の確保や、「施薬救療」の精神を実践する「濟生会人」の育成に努め、サービスの向上と組織体制の強化を図る。

6 ガバナンスの確立とコンプライアンスの徹底を図るとともに、危機管理体制の万全な備えに一層努める。

目 次

○ 令和3年度事業報告	頁
1 静岡県済生会支部事務局	1
2 静岡県済生会監査室	13
3 静岡済生会総合病院	15
4 静岡済生会療育センター令和	19
5 静岡医療福祉センター成人部	23
6 静岡医療福祉センターライトホーム	25
7 静岡市発達障害者支援センター	27
8 伊豆医療福祉センター	29
9 川奈臨海学園	33
10 静岡市心身障害児福祉センターいこいの家	37
11 小 鹿 苑	41
12 小鹿なでしこ苑	45
13 静岡市桜の園	48
14 静岡市心身障害者ケアセンター	53
15 ワーク春日	57
16 静岡済生会看護専門学校	59
17 静岡済生会訪問看護ステーションおしか	61

※各記載事業の記号は次のとおりです。

①・・・指定管理による事業

②・・・自治体からの委託事業

1 静岡県済生会支部事務局

基本理念

済生会創立の「施薬救療」の理念の下、静岡県済生会の各施設の連携を図り、その総力を挙げて質の高い医療・福祉サービスを提供し、安心・安全な地域医療・福祉の実現に寄与する。

令和3年度目標及び結果

目標1 安心・安全な地域医療・福祉の増進

(1) 病院及び各施設と連携した生活困窮者支援事業の積極的推進

目標数：1,954名

(2) 静岡県済生会地域包括ケア推進方策の検討

- ・ 済生会地域包括ケア連携士を中心とし、実現するための具体的施策の構築
- ・ 施設間の連携及び社会資源との連携について推進

結果 (1) 令和3年度計画に対しての実績 1,642名(1,722名)内訳：ホームレス1名(8名)、DV被害者2名(0名)高齢者及び障害者1,148名(1,331名)、刑余者4名(1名)、外国人239名(210名)、母子児童24名(27名)、その他224名(145名)

(詳細は、7ページから12ページ参照)

(2) 済生会地域包括ケア連携士を中心に施設間の連携等について協議、検討を進めた。12月にはフリーダイヤルによる相談窓口の設置と、総合病院を会場として、「なんでも相談会」を開催した。

目標2 各施設の円滑かつ安定的な運営支援

(1) 施設整備や事業推進上の課題解決等に係る支援

- ・ 川奈臨海学園の建替と新たな運営体制に対する支援、静岡医療福祉センターライトホーム事業の運営支援、指定管理事業である静岡市桜の園の在り方検討

(2) 職員研修や人事評価制度等の人材育成の充実・強化

- ・ 体系的な職員研修の構築、階層・職種毎の研修の開催
- ・ 人事評価制度の運用開始

(3) 適切な会計経理処理に対する支援の強化

- ・ 公認会計士による指導・会計経理担当職員研修会の開催

結果 (1) 川奈臨海学園・・・令和3年5月新園舎完成、令和4年3月旧園舎取り壊し完了
ライトホーム・・・県視覚障害者協会、行政担当者等と協議を行い、勤務体制や共通経費の按分の見直し等収支の均衡を図り、事業を継続する。

静岡市桜の園・・・令和4年度から5年間の指定管理の指定を受けたが、引き続き静岡市担当課と課題の確認と今後の対応策の協議を行っていく。

(2) 階層別研修は、リモートも含めての開催となった。(詳細は3ページ記載)

福祉施設での人事評価を2回実施した。

(3) 会計経理担当者研修は、新型コロナウイルスの影響で開催中止とした。

目標3 医療・福祉の人材確保

- ・ 実習指導者等との連携を図り、魅力ある法人の情報を発信し、外国人も含めた優秀な人材確保に努める。

結果	新型コロナウイルスの影響により実習受け入れが困難な状況から、担当者打ち合わせ会は開催しなかったが、各施設 SNS 等を活用し情報発信に努めた。 2年度より奨学金を貸与した介護福祉専門校（石川県）に通学する2名（インドネシア・ベトナム）と小鹿なでしこ苑でアルバイトをする介護福祉専門校（静岡市）に通学する2名（インドネシア）の計4名が採用に繋がった。
目標 4 静岡県済生会事業の積極的広報による市・県民との信頼関係の構築	
	(1) 病院及び各施設の情報発信の促進 (2) 済生会地域包括ケア連携士を中心とした施設間連携の取組の情報発信 目標：新聞等マスコミへの露出
結果	(1) 複数の施設でインスタグラム・LINE 等 SNS を活用し、情報発信に努めた。 (2) 掲示板を利用した PR 活動「静岡県済生会 15 事業所の紹介パネル」の作成

(1) 支部事務局運営事業

社会福祉法人^{恩賜財団}静岡県済生会の法人管理並びに運営事務について、次のとおり事業を行った。

ア 支部理事会の開催・・・6回開催（7回）※議案一覧は5～6ページに掲載

	開催日	場 所
第1回	令和3年5月12日	グランディエール ブケトーカイ
第2回	令和3年7月28日	〃
第3回	令和3年9月22日	〃
第4回	令和3年11月24日	〃
第5回	令和4年1月28日	静岡済生会総合病院（テレビ会議）
第6回	令和4年3月16日	ホテルアソシア静岡

イ 諸会議の開催

会 議 名 称	回
・支部事務局会議	21 (21)
・支部執行会議	6 (5)

医療施設及び社会福祉施設等の有機的な連携を図るための連絡調整

会 議 名 称	回
・静岡県済生会地域包括ケア未来構想委員会	5 (5)
・施設連携懇話会	0 (1)
・静岡済生会療育センター令和・伊豆医療福祉センター連携交流会議	0 (1)

ウ 済生会本部等との連絡調整

会 議 名 称	回
・支部長会議（本部）	2 (1)
・済生会関東ブロック会議（神奈川県支部）（テレビ会議）	1 (延期)
・全国済生会支部事務責任者会議（茨城県支部）	書面開催

- エ 第三者委員会の運営に係る業務・・・0回(2回)
 コロナウイルス感染症拡大により開催中止とした。

オ 職員研修事業の実施

担当部署	開催日	内容
企画課 第1回	令和3年6月25日	「業務新人職員研修」 ・ 済生会について ・ 無料低額診療について 7施設10名(9施設17名)
企画課 第2回	令和3年8月27日	「業務副主任職員研修」 ・ 課題解決について ・ 報酬改定について 10施設12名(3年度新規)
企画課 第3回	令和3年10月22日	「業務中堅職員研修」 ・ 虐待防止の推進 身体拘束廃止・適正化について ・ アンガーマネジメントに学ぶ 10施設16名(3年度新規)
企画課 第4回	令和3年12月17日	「業務主査・主任職員研修」 ・ 虐待対応 ・ 福祉防災について ・ 意見交換 9施設10名(7施設9名)
企画課 第5回	令和4年2月25日	「相談業務職員研修」 ・ 「静岡県済生会相談支援事業担当者一 覧」作成報告 ・ 意見交換 10施設14名(10施設11名)

その他

- ・ 財務課主催研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。
- ・ 実習担当職員打ち合わせ会は新型コロナウイルス感染症の影響で実習生の受け入れが難しく中止とした。

カ 機関誌定期発行による情報発信 「しぶだより」年4回の発行

キ 法人の管理運営に係る業務(会計事務所等による会計監査及び監事監査)
 対象・・・全施設

	開催日	対象
会計事務所および監査人による会計監査	令和3年4月19日、20日、 22日、23日	全施設
監事監査	令和3年4月28日	全施設

- ・ 行政機関(静岡県、静岡市)による指導監査への立会い

(2) 生活困窮者支援事業

生活困窮者総合支援事業(なでしこプラン)を病院、各施設とともに推進、展開した。(※各施設別詳細については、7~12ページに掲載)

(3) 静岡県済生会職員共済制度事業

職員及び家族の福利厚生の上昇を図るため、各種給付及び貸付事業を実施した。実績は、次のとおりであった。

事業名	令和3年度		令和2年度	
	人数(名)	決算額(円)	人数(名)	決算額(円)
退職共済事業給付金	31	105,248,738	24	92,382,599
医療共済給付金	5,716	40,684,104	5,543	37,925,990
職員共済制度資金貸付事業	0	0	0	0

(4) 施設等支援事業

ア 川奈臨海学園

施設と連携しながら円滑な施設整備を推進した。

(新園舎開所式：令和3年5月17日)

イ 組織運営上の課題を抱えた施設の将来構想検討に係る支援

静岡医療福祉センターライトホームは、関係団体等と協議を行い、勤務体制、共通経費の按分等の見直しなど収支の均衡を図り、事業を継続する。

また、静岡市桜の園については、施設の建て替えも含め、課題の確認と今後の対応策について協議を行い、引き続き令和4年度から5年間、指定管理の指定を受けることとなった。

ウ 医療・福祉連携促進の支援

(ア) 済生会地域包括ケア連携士を中心に、入退院に関わる調査、法人内自主勉強会、地域防災への参加と協力及び12月にはフリーダイヤルによる相談窓口の設置と、総合病院を会場として、「医療・福祉なんでも相談会」を開催した。

(イ) 静岡済生会総合病院を会場とし、総合病院及び福祉施設職員の協力の下、新型コロナウイルス感染症に係る職域接種を9月と10月に実施した。(2回実施2,150人)

(ウ) 総合病院が法人内通所施設利用者を対象に休日にドライブスルー方式のPCR検査実施へ協力した。

多数の陽性者が発生した法人内福祉施設への感染対策指導(総合病院)及び衛生材料の調達(全施設)等を支援した。

令和3年度支部理事会議案及び報告事項一覧			承認/否
令和3年5月12日 グランディエールブケトーカイ 4階シンフォニー			
第1回	第1号議案	令和2年度社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会事業報告について	承認
	第2号議案	令和2年度社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会決算報告について	承認
	第3号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会第三者委員の選任について	承認
	第4号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会施設長候補者の選任及び推薦について	承認
	報告事項ア	令和3年度支部役員人事について	報告
	報告事項イ	令和3年度各施設長人事について	報告
	報告事項ウ	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入結果について	報告
	報告事項エ	令和3年度静岡県済生会支部理事会開催予定について	報告
	報告事項オ	済生会フェア開催中止について	報告
	報告事項カ	報道等で見ると静岡県済生会	報告
	報告事項キ	川奈臨海学園開所式について	報告
令和3年7月28日 グランディエールブケトーカイ 4階シンフォニー			
第2回	第1号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会定款中一部改正について	承認
	第2号議案	川奈臨海学園基本財産担保提供承認について	承認
	第3号議案	令和3年度静岡県済生会施設整備計画の変更について	承認
	報告事項ア	令和3年度施設長人事について	報告
	報告事項イ	令和2年度決算の修正について	報告
	報告事項ウ	報道等で見ると静岡県済生会	報告
令和3年9月22日 グランディエールブケトーカイ 4階シンフォニー			
第3回	第1号議案	令和3年度静岡県済生会収支予算の補正について	承認
	第2号議案	指定管理者の指定に係る申請について	承認
	報告事項ア	指定障害福祉サービス事業所に係る改善指導に対する是正改善計画について	報告
	報告事項イ	医療訴訟判決について（静岡済生会総合病院）	報告
	報告事項ウ	報道等で見ると静岡県済生会	報告
令和3年11月24日 グランディエールブケトーカイ 4階シンフォニー			
第4回	第1号議案	令和4年度静岡県済生会施設整備の計画について	承認
	報告事項ア	静岡済生会総合病院半期決算報告について	報告
	報告事項イ	令和3年度発達障害診療医師養成研修（陪席研修）の受託について	報告
	報告事項ウ	報道等で見ると静岡県済生会	報告

令和4年1月28日		静岡済生会総合病院 6階第2会議室及びテレビ会議	
第5回	第1号議案	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入の承認について	承認
	第2号議案	令和4年度社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会事業計画について	承認
	第3号議案	令和4年度社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会収支予算について	承認
	第4号議案	令和4年度社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会職員定数について	承認
	第5号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
	第6号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会役員の選任について	承認
	追加議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会支部長候補者の選任及び推薦について	承認
	第7号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会施設長候補者の選任及び推薦について	承認
	報告事項ア	静岡済生会総合病院敷地（県有財産）賃貸借契約について	報告
	報告事項イ	令和3年度社会福祉施設に対する指導監査の実施結果について	報告
	報告事項ウ	指定管理者の候補者に係る審議結果について	報告
	報告事項エ	報道等で見える静岡県済生会	報告
	報告事項	静岡済生会総合病院医師逮捕について	報告
令和4年3月16日		ホテルアソシア静岡 4階 カトレア	
第6回	第1号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会組織規程の一部改正について	承認
	第2号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会就業規則の一部改正について	承認
	第3号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
	第4号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会給与規程の手当に関する特別措置規程の制定について	承認
	第5号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会有期契約職員就業規則の一部改正について	承認
	第6号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会無期転換職員就業規則の一部改正について	承認
	第7号議案	静岡済生会総合病院処務規則の一部改正について	承認
	第8号議案	静岡県済生会各施設の事業に係る運営規程の一部改正について	承認
	第9号議案	静岡済生会看護専門学校学則の一部改正について	承認
	第10号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について	承認
	第11号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会施設長候補者の選任及び推薦について	承認
	第12号議案	社会福祉法人 ^{静岡} 済生会支部静岡県済生会第三者委員の選任について	承認
	報告事項ア	報道で見える静岡県済生会について	報告
	報告事項	済生会総合病院医師逮捕について	報告
	報告事項	医療訴訟判決について（静岡済生会総合病院）	報告

第3次なでしこプラン(平成30-令和4年度)

令和3年度事業実績について

令和3年度	実績	対目標値
1,954	1,642	△ 312

施設名	事業名	令和3年度		
		目標	実績	対目標値
静岡済生会総合病院	社会福祉施設等健康診断支援事業	900	1042	142
	保護観察所等刑余者健診・相談事業	10	2	△ 8
	児童・ひとり親家庭等健康診断・相談事業	30	24	△ 6
	生活困窮者等健康診断・相談事業	100	0	△ 100
	外国人等健康診断・相談事業	100	12	△ 88
	生計困難者等に対する日用品及び交通費等の支援事業	15	11	△ 4
	聴力障害者手話通訳支援事業(休止)			
	外国人医療通訳支援事業	100	224	124
	長期療養者就労支援事業	15	13	△ 2
	無料健康相談事業	200	32	△ 168
	支部内各施設における無料健康相談 ※1	27	10	△ 17
	ハローワーク健康診断、相談事業			
	無料インフルエンザ予防接種事業	0	7	7
総合病院・小鹿苑・なでしこ苑	啓蒙・周知活動 ※2	350	234	△ 116
小鹿苑	虐待高齢者への緊急受入れ事業	1	31	30
静岡市桜の園	虐待障害者への緊急受入れ事業	2	0	△ 2
	少年院在院者奉仕活動実習受け入れ事業	16	0	△ 16
川奈臨海学園	保護観察対象者等が行う社会貢献活動の受入れ	16	0	△ 16
	施設退所者の健康診断補助事業	2	0	△ 2
静岡済生会療育センター令和	障害児療育講座	70	0	△ 70
なでしこプラン対象者数合計		1,954	1,642	△ 312

・病院(0)
・成人部(0)
・伊豆(10)

・病院(178)
・小鹿苑(56)
・小鹿なでしこ苑(0)

支部名	静岡県済生会
-----	--------

支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
対象者延数 (合計)	1	2	1,148	4	239	24	224	1,642

施設名	静岡済生会総合病院
-----	-----------

事業名	社会福祉施設等健康診断支援事業		内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	社会福祉施設（身体障害者関係施設、養護老人ホーム等）と連携し、当該施設又は院内にて、当該施設の利用者を対象に健康診断にかかる費用の免除・減額を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数			1,042					1,042
実施延日数	52	従事者延数	215	支出総額(円)	3,141,405 (内訳)						
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	静岡市救護所、静岡老人ホーム、白寿荘、ラポールあおい・たけみ・ファーム、WORKSエイブル、わらしな学園、ゆいまある									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)										

事業名	保護観察所等健康診断・相談事業		内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	保護観察所、刑務所、更生保護施設、地域生活定着支援センターと連携し、当該施設又は院内にて、刑余者等を対象に健康診断及び、相談を行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数				1			1	2
実施延日数	2	従事者延数	2	支出総額(円)	(内訳)						
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	『NPO法人ポポロ』（島田市就労準備支援センターより1名（受診相談） 静岡保護観察所より1名（健康診断）									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)										

事業名	児童・ひとり親家庭等健康診断・相談事業		内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	児童・母子福祉施設、静岡県女性相談センター等と連携し、当該施設又は院内にて入所者を対象に、健康診断及び相談を行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数						24		24
実施延日数	1	従事者延数	10	支出総額(円)	102,408 (内訳)						
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	千代田寮									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)										

事業名	生活困窮者等健康診断・相談事業		内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	神奈川県済生会等と共同で横浜市寿町で生活困窮者を対象に、健康診断及び相談を行う。当院は検診車（胸腹部撮影、聴力、視力等搭載）の派遣を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)	(内訳)						
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)										
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)		コロナ禍で中止								

事業名	外国人等健康診断・相談事業			内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	「外国人のための無料健康相談と検診会」実行委員会、市医師会等と連携し、外国人を対象に健康診断及び相談を行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数					12			
実施延日数	1	従事者延数	18	支出総額(円)	88,394 (内訳) 検査費 (75,900) 医療材料費等 (10,174円) 駐車場代 (2,320円)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)			外国人のための無料健康相談と検診会実行委員、静岡県弁護士会、浜松医科大学附属病院、県立大学								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)											

事業名	生計困難者等に対する日用品及び交通費等の支援事業			内容	その他 (その他)							
概要	ホームレス、身寄りのない生計困難者等を対象に日用品等の支援を行う。また、救命救急受診者で軽傷の場合等には、病院から目的地までの交通費の支給を行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数	1		10					
実施延日数	11	従事者延数	11	支出総額(円)	59,310 (内訳) 日用品 (41,370円) タクシー代 (17,940円)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)											
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)											

事業名	外国人医療通訳支援事業			内容	診療 ()							
概要	静岡県国際交流協会と連携し、日本語が通じない外国人を対象に、診察及び入院時に医療通訳の支援、調整を行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数					224			
実施延日数	75	従事者延数	80	支出総額(円)	106,008 (内訳) 6カ国、医療通訳 3人							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)			国際交流協会								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)			上記6カ国はブラジル・ペルー・パラグアイ・ボリビア・インドネシア・フィリピン								

事業名	長期療養者就労支援事業			内容	就労・社会参加支援 ()							
概要	ハローワークと連携し、長期療養者の就労支援及び相談を行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数								13
実施延日数	12	従事者延数	12	支出総額(円)	(内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)			静岡公共職業安定所								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)											

事業名	無料健康相談事業			内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	福祉事務所、民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会等と連携し、生活困窮者、社会的弱者を含む地域住民を対象に健康診断及び相談支援を行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数								32
実施延日数	1	従事者延数	3	支出総額(円)	(内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)											
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)			地域住民向け講習会(1回)								

事業名	無料インフルエンザ予防接種事業			内容	その他 (その他)							
概要	ホームレスや生活困窮者を支援している施設に入所中の保険証がない方、支払い能力がまだない方などを対象にインフルエンザ予防接種を実施し健康維持を図る			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数		2	2	3				
実施延日数	1	従事者延数	4	支出総額(円)	28,200	(内訳)	4,980×5=24,900	1,650×2=3,300				
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)			静岡市葵区高齢介護課(静岡老人ホーム)・更生保護法人少年の家								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)											

施設名	静岡済生会総合病院、静岡医療福祉センター成人部、伊豆医療福祉センター											
-----	------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業名	支部内各施設における無料健康相談会事業			内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	施設利用者・家族を対象に無料の相談会を施設行事開催時に行う。施設利用者だけでなく幅広く参加を募る			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数			7		3			
実施延日数	10	従事者延数	3	支出総額(円)	(内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)											
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)			コロナ禍で中止(病院、成人部)伊豆医療・・・施設内の相談事業所職員による無料相談を代替実施								

施設名	静岡済生会総合病院、特別養護老人ホーム小鹿苑、特別養護老人ホーム小鹿なでしこ苑											
-----	-----------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業名	啓蒙・周知活動			内容	その他 (研修)							
概要	施設利用者・家族・職員や地域住民、関係機関を対象になでしこプラン、無料低額診療事業等の済生会の活動について周知する。また、地域住民、関係機関等と連携し、講演会、情報交換会等を開催する			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数			56					178
実施延日数	15	従事者延数	37	支出総額(円)	(内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)											
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)			地域ケア従事者研修会2回(88+49=137人)森下地区民生委員児童委員協議会(22人)富士見地区民生委員児童委員協議会(16人)田町診療所(2人)さくらいろ静岡(1人)								

施設名	特別養護老人ホーム小鹿苑								
-----	--------------	--	--	--	--	--	--	--	--

事業名	虐待高齢者緊急受入れ事業	内容	その他 (その他)							
概要	家族の介護放棄による虐待高齢者等を緊急入所により受け入れる	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数			31					31
実施延日数	31	従事者延数		支出総額(円)	(内訳)					
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

施設名	静岡市桜の園、静岡済生会総合病院								
-----	------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

事業名	虐待障害者への緊急受入れ事業	内容	その他 (その他)							
概要	家族等による障害者への虐待の緊急保護において、緊急を要するケースを静岡済生会総合病院と連携し、受け入れていく	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)	(内訳)					
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)		緊急受入の要請が無かったため未実施。							

施設名	静岡市桜の園								
-----	--------	--	--	--	--	--	--	--	--

事業名	少年院在院者奉仕活動実習受入れ事業	内容	就労・社会参加支援 ()							
概要	短期間で改善・更正する可能性が高いとされた、概ね18歳未満の少年が入院する「駿府学園」と連携し、在院者に対して更正に向けた教育活動を実施する場として、桜の園生活介護事業(通所)を実習先として提供する	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)	(内訳)					
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)		コロナウイルス感染症対策のため令和3年度は未実施。							

施設名	川奈臨海学園								
-----	--------	--	--	--	--	--	--	--	--

事業名	保護観察対象者の社会貢献活動受入れ事業	内容	就労・社会参加支援 ()							
概要	静岡保護観察所、観察官と連携し、保護観察対象者等の社会貢献活動を受け入れる	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)	(内訳)					
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)		コロナウイルス感染症対策のため、社会貢献活動の受け入れができなかった。							

事業名	施設退所者の健康診断補助事業			内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	生活困窮のため健康診断を受けていない退園生に対するアフターケア及び健康状態のフォローを行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)	(内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)											
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)			退園者へのアフターケアを行う中、健康診断補助事業の対象となる退園者はいなかった。								

施設名	静岡医療福祉センター令和
------------	--------------

事業名	障害児療育講座(健康医療相談)			内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	施設利用者及び家族を対象に無料の相談会を療育セミナー開催時に行う。施設利用者だけでなく、幅広く参加を募る			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)	(内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)											
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)			コロナウイルス感染症対策のため、中止とした。								

2 静岡県済生会監査室

コンプライアンスの遂行と説明責任に対する社会的要請が高まる中で、社会福祉法人においても内部統制システムの整備と適切な運用が強く求められており、これまで以上に業務チェック機能を果たす内部監査の重要性が高まっている。

監査室は、引き続き関係法令、通知等に基づき施設の事務処理及び運営等が適正に行われているかどうかを明らかにし、必要な指導及び是正改善等を行うために下記の監査を実施した。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大半の監査が施設訪問によるものから書面による監査に変更し実施された。

(1) 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部静岡県済生会監査規程に則って次の監査を実施

- ①定期監査 時期及び内容を定めて計画的に実施。
- ②決算監査 毎会計年度終了後、決算役員会前に実施。

・定期監査・

施設名	監査日
川奈臨海学園	令和3年11月16日
小鹿苑（書面監査）	令和3年12月6日
なでしこ保育園（書面監査）	令和3年12月23・27日
小鹿なでしこ苑（書面監査）	令和4年1月6日
静岡市桜の園（書面監査）	令和3年11月27日
静岡済生会療育センター令和（書面監査）	令和4年1月13日
静岡医療福祉センター成人部（書面監査）	令和4年1月13日

なお、済生会本部の定めた業務監査チェックリストによる書面調査を全施設・事業所を対象に実施した。

・決算監査・

施設名	監査日
監査法人及び会計事務所による会計監査	令和3年4月19日、20日、22日、23日
監事監査	令和3年4月28日

(2) 行政機関等による指導監査及び実地指導等への立会

・静岡県・静岡市による指導監査

施設名	監査日	実施機関
川奈臨海学園	令和3年11月25日	静岡県
小鹿苑（書面監査）	令和3年12月6日	静岡市
なでしこ保育園（書面監査）	令和3年12月23、27日	静岡市
小鹿なでしこ苑（書面監査）	令和4年1月6日	静岡市
静岡市桜の園（書面監査）	令和4年1月11日	静岡市
静岡済生会療育センター令和（書面監査）	令和4年1月13日	静岡市
静岡医療福祉センター成人部（書面監査）	令和4年1月13日	静岡市

・静岡市による実地指導

施設名	監査日	実施機関
静岡市桜の園（書面）	令和3年12月14日	静岡市
ワーク春日（書面）	令和4年2月3日	静岡市
静岡市心身障害児福祉センターいこいの家（書面）	令和4年2月8日	静岡市
静岡市心身障害者ケアセンター（書面）	令和4年2月8日	静岡市
静岡済生会療育センター令和（書面）	令和4年2月17日	静岡市

(3) 支部監事による施設実地監査への立会

施設名	監査日
川奈臨海学園	令和4年1月12日

(4) 各施設の事業に係る運営規程の見直し支援

令和3年度の障害福祉サービス報酬改定及び介護報酬改定に伴い、各施設が定める運営規程について、適正な見直しを実施できるように改正事項を提案するなど、その改正作業を支援した。 {9施設 24運営規程}

3 静岡済生会総合病院

基本理念

私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します。

令和3年度目標及び結果

目標1 安心・安全・高機能な急性期医療の提供

- ・コロナ禍に対応した安心、安全な医療の提供に努める。
- ・業務の標準化と整理整頓を進め、顧客サービスの向上に努める。
- ・入院患者を中心とした機能の集約を目指す。

結果 ・新型コロナ対策と急性期医療の両立に努めた。

目標2 患者さん・連携医へのサービス向上

- ・「治す医療」と「支える医療」の充実に努める。
- ・プライバシーの配慮、施設整備の充実、接遇の質の向上を図る。
- ・地域の医療機関との連携を強化した紹介、逆紹介の推進
- ・無料低額診療、生活困窮者支援事業を推進する。
- ・広報活動の充実、強化に努める。ホームページの充実に努める。

結果 ・次年度へ向けての大型医療機器の整備を計画した。
・新型コロナの影響から広報活動全般は停滞した中で SNS を活用した情報発信を開始した。

目標3 優秀な人材の確保

- ・必要な人材の確保と定着を目指し、職員教育の更なる充実に努める。

結果 ・次年度へ向けての医師確保に努め、医師増員を実現した。

目標4 働きやすい環境

- ・専門性を生かした業務を行える体制を整備
- ・働き方改革への対応。勤怠管理システムの適正な運用
- ・障がい者雇用率2.5%以上を目指す。
- ・感染対策に一層の強化を図る。

結果 ・働き方改革を推進した。
・障がい者雇用率2.5%を達成した。

目標5 安定した経営

- ・新入院数及び入院単価の向上に努める。
- ・病床稼働率の向上に努める。

結果 ・ほぼ全ての経営指標が前年度比で回復したが、入院単価の大幅な増加を果たす一方、病床稼働率はわずかに減少した。また、コロナ関連の多額の補助金を受けた。

静岡県中部地域の中核病院（昭和23年6月1日開設）として、入院診療を中心とする診療の充実に努めるとともに、救命救急センター、周産期センター、地域災害医療センター、健康管理センターのほか、地域福祉サービス事業等の運営、活動を積極的に進め、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進を図った。

地域連携を一層推進するほか、医療の質及びサービスの向上を図り急性期病院として地域に更に貢献できる医療の提供を目指した。

なお、病院経営については、新入院数及び入院単価の向上、医療従事者の確保、支出削減に努め、安定した財源確保を図るとともに、職員の患者、連携医へのサービス向上等を模索したものの、新型コロナウイルス感染症への対応に追われ、その他の新たな取組を進めることは困難であった。

(1) 病院運営事業

病床の適正配置と効率運用により、各診療科の安定した診療体制を確保した。救命救急、周産期、脳卒中、循環器等地域のニーズに対応するとともに、7対1看護基準の維持により、安心・安全な看護体制を維持した。新入院数は前年度よりも回復したが、在院日数の短縮により一日平均入院患者数は減少した。

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
許可病床数	521床	521床	521床
一日平均入院患者数	468名	409名	411名
一日平均外来患者数	992名	937名	895名

(2) 救命救急センター・地域災害医療センター事業等

専門医を配置し、救急医療体制の充実強化を図った。また、災害派遣医療チーム(DMAT)の研修に積極的に参加し、大規模災害発生時の医療チーム緊急派遣に機動的に応じられるよう努めた。

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
救急患者数	18,000名	13,534名	13,253名
うち入院患者数	4,300名	3,847名	3,751名

(3) 臨床研修事業

臨床研修病院として、研修医を受け入れ、各科指導医による臨床実務を通じて基本的知識、技術の習得などの臨床研修を行い医師としての資質向上に努めた。マッチングではフルマッチを果たした。

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
受入研修医数	22名	21名	20名

(4) 医師・看護師確保対策事業(院内保育所)

医師・看護師の離職防止と潜在医師・看護師の再就職を促進するために、なでしこ保育園の充実運営に努めた。

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
事業所内保育事業(共同枠)	90名/日	51名/日	69名/日
〃 (地域枠)	20名/日	16名/日	15名/日
病児保育事業	延べ10名	延べ1名	延べ0名
放課後児童健全育成事業	13名/日	14名/日	10名/日

(5) 地域福祉サービス事業

社会福祉法人が運営する総合病院として、各医療福祉相談活動を通じ、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進など社会福祉の向上に努めた。

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
医療相談	9,500件	9,865件	10,286件
心理相談	4,500件	4,497件	4,166件

(6) 無料低額診療事業

生計困難者を対象に、無料または低額な料金での診療、無料の健康相談、保健教育等を行った。診療活動においては、生活保護患者以外の生計困難者について関係機関と連携の上、対象者への支援に努めた。

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
実施率	10.0%	7.6%	8.4%
対象者延べ数	46,000名	31,024名	34,621名

(7) 生活困窮者支援事業

無料低額診療対象者のみならず、生活困窮者全般を対象に、無料健康相談や無料または低額な料金での検診等を行った。無料低額診療事業とあわせて、支部内の他施設も含め、地域の関係機関・団体や当事者とともに啓発活動、教育活動の他、地域での福祉的課題について積極的に取組を行った。

主な対象者：

刑余者（刑務所などを出所した者）、DV被害者、ホームレス、単身高齢者、就労困難者への支援など

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
対象者延べ数	1,700名	1,545名	1,516名

(8) 健康管理センター事業

地域住民及び福祉施設入所者、一般事業所従業者の疾病予防、健康の保持増進に对应するため、人間ドック・各種健康診断を積極的に実施した。新規契約を締結したため、院内健診者が増加した。

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
人間ドック	1,900名	1,718名	1,633名
生活習慣病予防健診等	12,700名	13,805名	12,221名

(9) 地域開放事業

将来の生き方や職業の選択について考えている中学生、高校生を対象として医療、保健、福祉への理解を深めるため職場体験、ナーススクールなどを予定していたが、コロナ禍により開催を見合せた。がん広報も停滞し、市民公開講座の開催も見合せた。

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
市民公開講座	2回	0回	0回
職場体験(中学生参加人数)	40名	0名	0名
高校生ナーススクール	40名	0名	0名

4 静岡済生会療育センター令和

基本理念

私たちはノーマライゼーション実現のため、あたたかな心をもって皆さんを応援いたします。

令和3年度目標及び結果

目標1 経営の安定化

- ・関係機関と連携し、入院（入所）児（者）の確保に努める。
- ・医師、直接処遇職員の確保に努める。

結果 看護師1名（非常勤1） 支援員1名（常勤）
一日平均入院（入所）児（者）数 42.2名

目標2 適切な支援の提供

- ・年令および特性等に応じた支援を計画する。
- ・短期入所による地域支援を行う。
- ・第三者評価事業の受審

結果 児童、成人それぞれの日中活動（施設内での活動）を計画的に行った。
短期入所は病棟内の感染予防のため受け入れを中止している。
コロナウィルス感染症流行のため受審は次年度となった。

目標3 安全な医療・生活の場の提供

- ・継続的に院内感染対策、医療安全対策、虐待防止に取り組む。

結果 新型コロナウイルス感染症対策を継続した。
虐待防止の研修の実施、定期的に委員会を開催した。
第三者委員へ訪問し、助言をいただいた。

(1) 医療型障害児入所施設事業（一種事業）（定員 60 名）

障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業）（定員 60 名）

入所児（者）及び通院児に対し、リハビリテーション・医療ケア・教育・施設内保育・生活指導等の総合療育及び療養上の支援を行った。従来の肢体不自由児療育に加え、発達障害児の診療を行うなど、利用者からの幅広いニーズに応えた。

入所児（者）数は、保育・教育機関の環境の充実、交通網の発達による在宅志向の高まりなどから平成28年度以降5年連続減少していたが、今年度は療養介護の入所者の増などがあり前年度の実績を上回ることができた。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均入院(入所)児(者)数	48名	42.2名	36.7名
一日平均外来患者数	150名	133.2名	137.5名

疾病別人員 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

疾病別	年間実人員	構成比
脳性麻痺	41名	60.3%
進行性筋・神経疾患	3名	4.4%
二分脊椎	3名	4.4%
その他	21名	30.9%
計	68名	100.0%

月別入所者数

	初日在籍者数	延べ人数
3年 4月	41名	1,217名
5月	40名	1,234名
6月	40名	1,211名
7月	42名	1,267名
8月	46名	1,347名
9月	44名	1,229名
10月	43名	1,346名
11月	42名	1,301名
12月	45名	1,350名
4年 1月	43名	1,345名
2月	42名	1,209名
3月	44名	1,347名
合計	512名	15,403名
月平均	42.6名	1,283名
一日平均		42.2名

(2) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

在宅の障害児（者）及びその家族の福祉の向上、支援を目的としているが、昨年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で受け入れができなかった。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間利用延人数	200名	0名	0名
一日平均利用人数	0.5名	0名	0名

(3) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業（二種事業）[㊦]

ア 静岡市障害者等相談支援事業[㊦]

静岡市における相談支援事業指定施設として、在宅福祉を担当する職員を配置し、在宅の障害児（者）及び保護者に対して地域生活での具体的な相談、指導、サービスの調整を実施した。

イ 障害者等相談支援事業（虐待相談等含む）[㊦]

- ・相談支援事業として総合的な在宅サービスの調整、援助等

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
地域生活の支援・助言	3,000件	3,568件	2,965件

ウ 障害児等療育支援事業[㊦]

(7) 在宅支援訪問療育等指導事業

- ・派遣職員 医師、PT、OT、ST、心理士等

- ・活動先 障害児保育実施園、重度障害児（者）訓練ホームの巡回、在宅訪問

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
相談等延件数	75名	26名	32名

(イ) 在宅支援外来療育等指導事業

- ・個別相談、療育音楽、グループ保育活動

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
相談指導延件数	280名	60名	60名

(ウ) 施設支援一般指導事業

- ・障害児保育研修、発達フォローアップ教室、自主研修会等の指導等

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
支援回数	13件	0件	0件

エ 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業

- ・利用者の相談支援及びサービス利用計画書の作成等

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
利用計画書作成件数	130件	144件	135件

(4) 日中一時支援事業（公益事業）[㊦]

医療施設機能を提供しながら在宅の障害児（者）の相談支援や施設短期入所の受け入れなど、地域に住む家族の生活への具体的な支援を目的としているが、新型コロナウイルス感染症の影響で受け入れができなかった。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間利用延人数	30名	0名	24名
一日平均利用人数	0.1名	0名	0.06名

(5) その他の事業（研修室・会議室等運営事業）

医療・社会福祉事業に携わる者の研修等の便宜に供するため、会議室等の管理運営事業を行った。

ア 会議室、ミーティング室利用状況

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
会議等利用人数	2,500名	10名	720名

イ 宿泊施設利用状況

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
宿泊施設利用人数	15名	0名	0名

(6) その他の事業（なでしこプラン）

事業名 障害児療育講座（健康医療相談）

施設利用者・家族を中心に無料の相談会を療育セミナー開催に合わせて行う予定だったが、今年度は、新型コロナウイルスの影響で開催中止とした。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
受講者数	70名	0名	0名

5 静岡医療福祉センター成人部

基本理念

- ・健康で豊かに安心して生活できるよう支援します。

令和3年度目標及び結果

目標1 良質かつ安心・安全なサービスの提供に努める

令和2年度末の福祉サービス第三者評価受審結果をもとに、具体的な問題点を把握し、サービスの質の向上に結び付けていく。

結果 受審結果を踏まえ、研修等への積極的な参加による職員の資質向上や家族・後見人・相談事業所等との連携強化を図った。

また、勤務体制の見直しを行い、早番制度導入（3年度は試行、4年度から正式運用）及び土・日祝日における職員増員配置を可能な範囲で実施し、利用者に対する支援の充実に努めた。

施設整備として介護記録システムを導入し、職員の業務負担の軽減を図ることで、利用者に直接処遇する時間の確保に繋げた。

目標2 地域との交流を深める

施設外の催し・大会等積極的に参加し、利用者の視野を広げるとともに、地域に施設を利用してもらおう。そして地域防災に参加協力し、地域に認知してもらおう。

結果 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い様々な行事が中止になったが、施設内での防災訓練に地域住民を受け入れるとともに、西豊田学区（駿河区）との地域支え合い体制づくり実行委員会にも参加し、地域との交流を深めた。

目標3 安定した経営を目指す

利用者の開拓に努め、入所者を確保する。（目標）年間 延べ20,400人

結果 退所者の増加や病気等での入院増加に伴い、延べ利用者数、一日平均在所者数ともに昨年に比べ減少した。

(1) 障害者支援施設（一種事業）「施設入所支援60名、生活介護60名」

障害者総合支援法による障害者支援施設として、日中は「生活介護」、夜間は「施設入所支援」の2事業を行った。

- ・定員 施設入所支援60名(60名)
- ・年間入所者数 6名(2名)
- ・年間退所者数 8名(3名)
- ・年間延在所者数 19,366名(19,827名)
- ・一日平均在所者数 53.1名(55.7名)

疾病別人員 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

病名	年間実人員(名)	構成比(%)
脳卒中	24	45.3
その他の脳原性疾患	8	15.1
脳外傷	3	5.7
その他	18	33.9
計	53	100.0

月別生活介護・入所者数

月	入所 人数	生活介護						施設入所	
		入所		通所		合計		利用 人数	延べ利用数
		利用 人数	延べ利用数	利用 人数	延べ利用数	利用 人数	延べ利用数		
4	55	54	1,162	5	47	59	1,209	54	1,584
5	54	54	1,088	5	34	59	1,122	54	1,606
6	55	54	1,185	6	53	60	1,238	54	1,617
7	56	54	1,170	6	46	60	1,216	54	1,648
8	56	56	1,202	6	43	62	1,245	56	1,693
9	56	56	1,192	6	42	62	1,234	56	1,624
10	56	56	1,120	5	43	61	1,163	56	1,653
11	58	57	1,197	6	45	63	1,242	57	1,632
12	56	55	1,222	6	48	61	1,270	55	1,648
1	56	54	1,091	6	44	60	1,135	54	1,609
2	54	53	1,056	6	30	59	1,086	53	1,478
3	53	52	1,168	5	18	57	1,186	52	1,574
計			13,853		493		14,346		19,366

- ・定員 生活介護 60名 (60名)
- ・開所日数 261日 (261日)
- ・年間延利用者数 14,346名 (14,682名)
- ・一日平均在所者数 54.96名 (56.25名)

(2) 福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）（空床）

指定障害福祉サービス事業所として短期入所事業を空きベッドの利用により実施した。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間利用延人数	210名	342名	215名
一日平均利用人数	0.6名	0.9名	0.6名

6 静岡医療福祉センターライトホーム

基本理念

三療免許者に対し、必要な技術及び生活指導を行い、利用者の自立更生をはかる。

令和3年度目標及び結果

目標1 経営の安定化

- ・利用者（施術者）の確保
- ・利用客の確保 目標 3,000人
- ・支出の見直し

結果

施術技術の研修会の実施

利用客 1,384人

令和4年度に向けて支出（人件費、共通経費）の見直しを行った。

目標2 施設の広報活動

- ・済生会フェアへの参加
- ・マッサージ無料奉仕の実施
- ・近隣町内会への広報活動の実施

結果

済生会フェアでのマッサージ無料体験 中止

マッサージ無料奉仕 中止

近隣町内会への広報活動の実施 中止

目標3 施設の将来構想

- ・関係団体、行政機関等と連携した具体的な方策の検討

結果

関係団体、行政機関と施設の在り方について継続協議

今年度積立金をすべて取り崩したが令和4年度からの人件費と共通経費の見直しにより収支の均衡を図ることとした。

(1) 利用者指導事業（定員20名）

利用者の技術（鍼・灸・マッサージ）及び生活訓練動作の指導を行い、自立生活ができるよう養成に努めた。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均通所者数	5名	0.95名	2.3名

疾病別人員（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

疾病分類	通所実人員	構成比
先天性視覚障害者	1名	16.7%
中途視覚障害者	5名	83.3%
計	6名	100.0%

月別在所者数

年月	通所者延人数
3年 4月	23名
5月	20名
6月	17名
7月	19名
8月	14名
9月	13名
10月	19名
11月	21名
12月	21名
4年 1月	17名
2月	16名
3月	26名
合計	226名
月平均	18.8名
一日平均	0.95名

(年間通所日数 237日)

(2) その他

*ライトホーム研修会の実施

開催日 : 令和3年11月9日(火)～25日(木) 13時～16時

目的 : 外部受講者に対する広報活動
視覚障害当事者の技術向上に貢献

内容 : 伏臥位での頭側から首と背部へのアプローチ

対象者 : ライトホーム研修生、一般視覚障害当事者で三療免許取得者、
視覚特別支援学校理療科生徒・卒業生

配布資料 : ライトホーム研修メニュー一覧、パンフレット

7 静岡市発達障害者支援センター

基本理念

直接支援である相談、発達、就労支援及び情報提供や啓発研修のより一層の充実を図り、医療、保健、福祉、教育、雇用、親の会など関係機関や団体との連携により専門性を持った支援職員人材育成、ペアレントメンター、地域サポーター養成研修等の支援を行っていく。

令和3年度目標及び結果

目標1 静岡市発達障害者支援センター運営事業について、相談支援、発達支援、就労支援を継続し適切な助言や支援の提案を行う

結果 相談支援においては、相談者や関係機関と支援や情報を共有するために、電話相談のやり取りを行うことを意識した結果、件数が増加した。発達支援については、おもに支援体制サポート強化事業や※1コンサルテーション事業において、特に園・小・中学校に訪問をした際に、特定の対象者ではなくクラス全員の様子と助言を求められることが増えたため、発達支援の件数が目標を上回った。就労支援においては、目標を下回ったが相談時間が当センターで基本の1時間を大幅に越えて2時間にわたるケースがあるなど、相談内容についてはより困難化をしており、今後も重点的な支援の課題として取り組みたい。

※1 年4回の支援体制サポート事業を超えてさらにバックアップが必要となる場合、訪問して支援する事業

目標2 発達障害者家族支援・支援体制サポート強化事業について、支援体制サポート強化事業において、巡回相談を実施する

※2ペアレントメンター・※3地域サポーター養成講座を実施し、あわせてペアレントメンターの活用を行う

※2自らも発達障害のある子どもの子育てを経験し、かつ相談支援に関する一定のトレーニングを受けた親
※3養成講座を受けた専門機関等の職員

結果 ペアレントメンター・地域サポーター養成研修では、例年の養成講座6回に加え、養成講座を修了したペアレントメンターが実際に活動を継続している地域はまれであり、引き続き継続できる体制づくりを実施した。

支援体制サポート強化事業については、園・学校に加えて新たに就労移行支援事業所への訪問を実施した。今後も乳幼児期から成人期まで途切れのない支援がつながるよう事業を成人期まで拡大していくことを課題とする。

目標3 発達障害について、主催研修会、専門研修会、講師派遣を実施し、普及と啓発活動を行う

結果 令和2年度に引き続き一般研修、専門研修、かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会をZoomによるWeb開催をできる体制を整え実施した。ペアレント・プログラムなど一部の研修会については、集合形式とWeb形式を組み合わせたハイブリット型で実施した。

発達障害者支援法に基づく発達障害者に対する相談支援、発達支援、就労支援、関係機関に対する普及啓発及び研修等を行い、また、静岡市在住の自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害がある本人、家族、関係者及び関係機関からの相談支援を行った。

(1) 発達障害者支援センター事業^委

ア 発達障害児者及び家族に対する相談支援

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間延相談件数	900件	1,177件	560件

イ 発達障害児者及び家族に対する発達支援

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間延相談件数	1,000件	1,508件	1,545件

ウ 発達障害児者に対する就労支援

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間延相談件数	250件	219件	252件

エ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修（集合形式とWeb形式による開催）

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間開催回数 (参加延人数)	70回 (2,500名)	127回 (3,345名)	111回 (4,835名)

(2) 家族支援・支援体制サポート強化事業^委

ア 支援体制サポート強化事業による巡回

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間延ケース数	450件	1,306件	1,033件
年間延訪問数	168回	166回	167回

イ ペアレントメンター・地域サポーターの養成

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間開催回数 (参加延べ人数)	6回 (300名)	6回 (189名)	6回 (182名)

ウ ペアレントメンターの活用

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間実施回数 (ペアレントメンター延べ人数)	50回 (145名)	71回 (186名)	64回 (181名)

8 伊豆医療福祉センター

基本理念

私たちは、障がいを持つ方々の生活の充実・納得を目指して、チームを組んで医療と療育の総合的支援に取り組めます。

令和3年度目標及び結果

目標

1 地域ニーズの的確な把握と、適切な病床利用

目標：入所者数 36 名

2 入所利用者の満足度の向上

目標：病棟での様々な行事の充実

3 在宅重症心身障害児者の福祉向上

目標：利用者数 生活介護 5 名/日 児童発達支援 5 名/日 短期入所等 5 名/日

4 運営システムの見直しによる施設機能の充実と業務の効率化

目標：オンライン診療の実施、電子カルテの導入

結果

- 令和3年度の入所者数は、2名の新規入所があったことから、年度末は児童が13名、成人が23名の計36名となった。
- 病棟での行事については、コロナ禍により例年に比べ規模は縮小したが、夏祭やクリスマス会などを実施し、入所利用者に季節感を味わっていただいた。
- 外来患者については、いわゆる発達障害の患者は増加しており、診療枠を増やしているが、新患の予約は3か月から6か月先でないと入れられないような状況となっている。
- 在宅支援福祉関連サービスでは、生活介護利用者と児童発達支援利用者は、それぞれ5.3名/日、3.2名/日と、前年度より微減したが、短期入所等は、2.2名/日から3.3名/日と増加した。
- 運営システムの見直しについては、オンライン診療の実施に伴う課題の整理を行うとともに、電子カルテを導入した。

当センターは、社会福祉施設であるとともに、医療法に基づく病院であるので、医療の提供も併せて行っている。

医療の提供については、重症心身障害児(者)への入院診療とともに、外来診療として、脳神経外科、発達行動小児科、小児神経科、整形外科、リハビリテーション科、障害児(者)歯科の専門診療を実施している。

地域への支援の必要性が高まる中、入所・通所事業、相談支援事業、医療の提供を通じて、静岡県東部の障害児(者)の総合的な療育支援の機能を担っている。

(1) 医療型障害児入所施設(一種事業)・障害福祉サービス事業(療養介護)(二種事業)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
1日平均在所児(者)数	36名	35.0名	33.9名
1日平均外来患者数	96名	88.3名	88.3名

(入 所)

(外 来)

- ・定 員 43 名 (43 名)
- ・年間延べ患者数 25,346 名 (25,249 名)
- ・在所児(者)数 36 名 (34 名)
- ・年間診療日数 287 日 (286 日)
- ・年間延べ在所児童(者)数 12,770 名 (12,382 名)
- ・一日平均患者数 88.3 名 (88.3 名)
- ・一日平均在所児童(者)数 35.0 名 (33.9 名)

(2) 障害福祉サービス事業 (生活介護) (二種事業)

(3) 障害児通所支援事業 (児童発達支援) (二種事業)

(2) 障害福祉サービス事業	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
1日平均利用者数	5名	5.3名	5.4名

- ・定 員 5名 (5名)
- ・登録者数 21名 (19名)
- ・年間延通所児数 1,209名 (1,299名)
- ・一日平均通所者数 5.3名 (5.4名)
- 226日 (238日)

(3) 障害児通所支援事業	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
1日平均利用者数	5名	3.2名	3.3名

- ・定 員 5名 (5名)
- ・登録児童数 8名 (10名)
- ・年間延通所児数 628名 (690名)
- ・一日平均通所児数 3.2名 (3.3名)
- ・年間通園日数 193日 (213日)

(4) 障害福祉サービス事業 (短期入所) (二種事業)

(5) 日中一時支援事業 (地域生活支援) (公益事業) 委

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
1日平均利用児(者)数	5名	3.3名	2.2名

- ・年間延べ利用者数 1,110名 (828名)
- ・一日平均利用児(者)数 3.3名 (2.2名)
- ・年間実施日数 331日 (365日)

※短期入所・日中一時支援の合計

(6) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業 (二種事業) 委

ア 特定相談支援事業・障害児相談支援事業

相談支援専門員2名を配置し、利用計画作成のための相談に対応した。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
計画相談等(モニタリング含む)	400回	305回	289回

イ 静岡県在宅重症心身障害児（者）療育支援事業 ㊦

医師・看護師・訓練士・保育士等による外来相談を中心に、重症心身障害児（者）を対象として、地域での療育や生活に関する相談・支援を実施した。

令和3年度計画策定時には廃止予定であったが、県において対象者を限定して復活した（旧事業名：静岡県障害児（者）地域療育支援センター事業）。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
在宅支援訪問療育等指導事業	- 回	13 回	207 回
在宅支援外来療育等指導事業	- 回	28 回	115 回
施設支援一般指導事業	- 回	0 回	16 回

ウ 静岡県発達障害者支援センター機能強化事業 ㊦

自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害等があるいわゆる発達障害児（者）に対し、それぞれのライフステージに応じた生活を支援するため、地域での医療や福祉サービス等の情報提供を行うとともに、学校・保護者を含む関係機関とのケア会議に参加した。賀茂地区の学校等を9回訪問し、保護者相談を63件実施した。

エ 一般相談支援等 ㊦

身近な地域での各種福祉サービスの利用などに関する、電話等を含めた様々な相談に応じるとともに、障害児（者）が充実して暮らせる地域づくりを目指し、行政機関や、自立支援協議会との連携を図った。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一般相談等 (地域生活支援事業含む)	700 回	664 回	714 回

オ 地域連携支援事業

静岡県障害児（者）地域療育支援センター事業の廃止に伴い、イの対象外の障がいを持つ方に対し、当施設の独自事業として、施設・保育所・学校（特別支援学校を含む）等へリハビリ等の専門職を派遣し、専門的な技術指導や助言を行った。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
地域連携支援事業	100 回	44 回	一回

(7) その他の事業（なでしこプラン）無料健康相談

施設の一般公開に合わせて、無料健康相談を実施した。また、幅広い相談に対応できるよう、他施設や外部団体との連携強化を図った

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間利用者数	15名	10名	13名

(8) オンライン診療の実施

外来患者や職員の感染防止のみならず、静岡県東部という距離的にも時間的にも遠い分散された地域の特性の中、通院の負担、特に増加する共働き世帯の制約を軽減するために、オンライン診療と対面診療を併用実施できるよう課題を整理した。

(9) 電子カルテの導入

医療情報の記載・表示の簡素化、効率化及び各科（課）情報の連携強化、医事・会計業務の効率化を図り、業務負担の軽減、患者・利用者へのサービス向上を目指すため電子カルテを導入した。

9 川奈臨海学園

基本理念

子どもの最善の利益のため、子どもたち一人ひとりが尊重され、心身とも健やかに育成され将来健全な社会の一員として自立できるように支援を行う。

令和3年度目標及び結果

<児童養護施設>

目標1 県の社会的養育推進計画に合わせた新施設での取り組み

- (1)施設の全面改築により1ユニット6名での生活支援を始め、より家庭に近い環境で子どもたちの支援をする。
大舎制から小規模へと移行をするため児童及び職員ともに課題はあるが「家庭的」を意識して支援を行う。
- (2)改正児童福祉法の理念に基づく県の社会的養育推進計画に沿って、家庭的な養育のための運営を行う。
児童養護施設の高機能化・多機能化について検討し進めていく。

結果 令和3年4月に新施設の引き渡しを受け、5月から新しい施設での児童の生活を始めることができた。従来の集団養育から、家庭的で小規模なユニット形態の生活となり児童個々の課題やニーズに取り組むことができるようになった。
また令和5年度に新たに伊東市八幡野地区での地域小規模児童養護施設の開所を目指し、地域住民や協力事業者と協議を開始した。

目標2 基本理念に基づき、児童の生活支援及び自立へ向けての取り組み

- (1)本体施設36名、地域小規模児童養護施設6名、小規模グループケア施設への移行となり、自立支援計画票に基づき、児童一人ひとりに合った生活支援を行う
- (2)高校卒業学年児童の自立に向けて支援する。
目標：該当児童 2名
- (3)家庭復帰へ向けて家族との連携及び協働について家族再統合のできる家庭の調整を行う。
目標：7家庭

結果 関係機関と協議し入所児童ごとに自立支援計画を立てたうえで支援を行った。
令和3年度措置対象入所児童は41名（入所理由別内訳）
・虐待による入所 31名 75.7%
・養護による入所 10名 24.3%
本体施設の定員36名、地域小規模児童養護施設わかなの定員6名に対し、年度内の新規入所者は9名、年度内の退所者は11名で内訳は家庭復帰が4名（1家庭）、他施設へ変更が5名、就職等の自立が2名だった。

目標3 里親支援への取り組み

- (1)里親の研修、実習を積極的に受け入れる。
- (2)里親の開拓や資質向上のサポートを行う。

結果

- (1) 静岡県から養育里親認定研修事業の委託を受け里親施設研修を実施した。
- (2) 施設と同じく社会的養護を担う里親家庭との連携を強化するため、東部・賀茂地区の里親会に参加した。また里親家庭の子育て相談や一時的休息を図ることを目的に川奈サロンの開催や地域別サロンに参加した。

	実績
(1) 養育里親認定研修	8組 15名
(2) 里親の開拓や資質向上のサポート	東部・賀茂里親会 6回 サロンの開催・参加 11回

<病児保育>**目標4 病児保育事業の充実を図る**

- (1) 伊東市の委託を受け指定医療機関と連携し、病児に対して疾病からの回復を支援する。
- (2) 関係機関と連携し、より多くの市民へ事業の周知を図り利用者数の増加に繋げる。周知方法やより利用しやすい方法を整理し一つずつ取り組む。

結果

- (1) 伊東市内の小児診療を行う医療機関に協力を仰ぎ、指定医療機関数を3機関から5機関へ増加し、利用者の利用窓口を増やした。
- (2) スマートフォンやSNSを活用した利用者への情報提供や予約等の連絡方法の幅を広げた。また利用する保護者が安心して預けられるよう日中の様子などをSNSで定時報告する取り組みも始めた。
新型コロナウイルス感染拡大やそれに伴う保護者の働き方の変化に関する影響もあり、利用者数は目標数に対して少ないまま推移した。

目標5 子育て短期支援事業の推進

複数の市町の要請を受け、児童を養育することが一時的に困難な家庭に対し緊急一時的に保護、養育を行い、児童及び家庭の福祉の向上を図る。

結果

伊東市から子育て短期支援事業の受託し、保護者の出産入院により支援が必要な家庭の児童を2名×8日間受入れた。
他の近隣市町からの委託については引き続き協議している。

(1) 児童養護施設運営事業（一種事業）

令和3年度月別在所児童数（本体と地域小規模児童養護施設合算） (名)

年 月	初日在籍者数	延べ人数	年 月	初日在籍者数	延べ人数
令和3年4月	32	910	10月	34	1,054
5月	30	955	11月	34	1,006
6月	32	960	12月	33	1,045
7月	32	992	令和4年 1月	34	1,054
8月	34	992	2月	34	952
9月	34	960	3月	34	987
			計	397	11,867
			() は前年度		(16,130)
			月 平 均	33.0	988.9
			一日平均		32.5

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
本体定員	令和3年5月より 36名	令和3年5月より 36名	65名
地域小規模児童養護施設わかな定員	6名	6名	6名
一日平均在所児童数	36名	32.5名	44.1名

(2) 病児保育事業（二種事業）委

令和3年度の利用実績

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間利用延べ児童数	400名	261名	132名
月平均児童数	34名	21.7名	11名

(3) 子育て短期支援事業（二種事業）委

令和3年度の利用実績

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間延べ利用児数	20名	16名	8名

(4) その他の事業（なでしこプラン）

ア 保護観察対象等が行う社会貢献活動の受け入れ

保護観察所及び地区保護司会と連携し、保護観察対象者の社会貢献活動の場を当学園が提供し継続的に受け入れと支援を行う計画を立てたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染対策のため行わなかった。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間受け入れ回数	2回	0回	0回
年間受け入れ延べ人数	16名	0名	0名

イ 退所児童の健康診断補助事業

施設の自立支援担当職員が中心となり施設退所者のアフターケアを継続的に行っているが、生活困窮のため健康診断等を受けていない医療的ケアが必要な退所者はいなかった。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間受け入れ延べ人数	2名	0名	0名

ウ 地域支援事業の推進

伊東市小室地域において住民が安心して暮らせる地域作りに向け、住民と関係機関が連携しさまざまな地域課題を共有し助け合う社会を育んでいく場の設置検討を目的とした小室地域ふるさと協議会会議に参加した。児童養護施設の特性を生かした児童虐待防止、子育て支援についても協議した。

検討内容	会議方法	回数
地域カフェの活動創設検討について 等	WEB会議	1回

(5) その他 地域における公益的取組

令和3年7月に発生した熱海豪雨災害で避難を余儀なくされた方の福祉的支援のため、静岡県災害派遣福祉チーム静岡DWA Tに登録する職員2名を避難先の宿泊施設に派遣した。

DWA T登録員	期間	派遣先
登録員A 児童指導員	第1クール 令和3年7月7日～11日 延べ5日間	ニューフジヤホテル
登録員B 保育士	第11クール 令和3年8月17日～19日 延べ3日間	熱海金城館

(6) その他 大学等修学支援事業

入所措置中に他県の大学へ進学をした施設の退所者1名に対し、児童養護施設の措置解除(20才)以降も大学の修学や卒業・就職を支援するため、静岡県大学等修学支援事業を受託し、経済的支援のほか、施設に在籍する自立支援担当職員や担当者が行政に必要な手続きや引っ越し等を共に行った。結果、本人の希望する静岡市内の事業所への就職へ繋がった。就業後も対象者からの相談事など引き続き支援を行う。

10 静岡市心身障害児福祉センターいこいの家

基本理念

児童福祉法に基づく児童発達支援センターとして、発達心配な乳幼児の子育て支援・家庭支援の充実を図り、こどもたちの健やかな育ちと安心・安全な生活の実現に努める。

令和3年度目標及び結果

目標1 通園支援事業の充実

- ・個々の発達状態を踏まえた個別支援計画に基づき、こども・保護者の気持ちに寄り添いながら、集団生活を通して遊びとコミュニケーションの力を育て、生活習慣の自立と社会適応を支援する。
- ・支援の多様化に伴い、希望者には幼稚園・保育園・事業所等との並行通園を実施し、連携を取りながらこどもの成長・発達を促していく。

結果

- ・新型コロナウイルス感染防止のため、令和3年度も保護者参加で全体での行事は中止または、クラス毎での実施に変更した。緊急事態宣言期間や濃厚接触者対象になった場合は自宅待機をお願いする事が度々あった。通園事業では換気、密を防ぐ、消毒を徹底するといった感染対策の結果、クラスターの発生や、インフルエンザや嘔吐下痢などの流行もなく、こどもたちは例年より元気に通園できた。
- ・幼稚園・保育園との併行通園や、他事業所との併用を希望する利用者同士を組み合わせ利用してもらおう事で、保護者のニーズに応える事が出来、利用率の向上が図れた。また、各関係機関とは担当者会議をリモート等で実施し、移行支援については情報提供書の整備を行い、より連携を図るよう努めた。

目標2 職員の資質向上

- ・社会福祉サービス第三者評価を受審し、職員全体にいこいの家の運営方針等を周知徹底させ、より良い支援に繋がるよう意識を高めていく。
- ・新型コロナウイルス感染防止の観点からオンライン研修を取り入れ、職員全員が参加できる体制を調える事でより多くの知識・技術を習得できるようにする。
- ・第5期指定管理を受託したが、完全指定管理料金制から利用料金併用制へ変更となるため、収入の向上が必須となる。利用状況等の現状を把握し、療育の質を落とさず収入を上げる方法について運営会議で検討していく。

結果

- ・社会福祉サービス第三者評価を受審したことで、今までの運営や支援の内容を振り返り、不十分な点が把握できた。年内中に改善できる点にも取り組むことが出来たが、年度末に受審結果がでたので、内容を確認し、課題については次年度以降計画的に改善できるよう取り組んでいく。
- ・オンライン研修が一般的になったことで、移動時間などの節約ができ、研修に参加しやすくなった。職員研修計画を整備し、出来るだけ多くの職員に研修に参加できるように配慮した。
- ・併行通園児の受け入れについては毎月の運営会議で検討し、児童発達支援管理責任者が中心となり併行通園児に対応することで利用率の向上を図りつつ、クラス運営も円滑に実施できた。

目標3 親子教室の充実

- ・親子教室は、保健センター、静岡済生会療育センター令和、静岡市発達障害者支援センターきらり、小児科医院、こども病院等からの紹介で参加児が増えている。今後も各機関との連携を密にし、随時受け入れを行い切れ目のない支援をする。また、新型コロナウイルス感染防止のため小集団（7名まで）に分けて分散対応を検討していく。
- ・保育所等訪問支援事業は計画相談事業所や児童発達支援事業所からの紹介が多いため、今後の連携を深めていく。また、保護者から利用希望があれば速やかに支援につなげていく。

結果

- ・親子教室は、まん延防止等重点措置期間や緊急事態宣言期間中は、静岡市の指示により集合での開催は中止し、個別での対応に切り替え、親子教室利用児の療育相談を実施した。通常開催時も密を防ぐため1グループ7組までとし、前半・後半に分けて実施した。このため延べ利用者数は前年と比べ170名減となった。
- ・保育所等訪問支援事業は、年間14ケースと契約し支援を実施した。相談支援事業所や他の児童発達支援事業所からの紹介が増え、複数の機関との連携が必要となった。ケース会議等に積極的に出席し、保護者を含め支援内容や進路について関係機関と連携を深める事が出来た。

目標4 地域福祉事業の充実

- ・「いこいの家通信」を毎月発行し、事業内容を地域自治体や関係機関に伝えていく。
- ・地域に開かれた施設として見学・研修・実習・ボランティア等の受け入れを拡充していく。

結果

- ・「いこいの家通信」は行事の内容を写真を添え読みやすく記載した。「おかあさんの詩」は、卒園児保護者が知り合いにも読んで欲しいと言って、冊子を配布してくださった。
- ・感染予防のため、散髪奉仕以外のボランティアの受け入れは中止した。実習生受け入れや施設見学は人数を制限して再開。感染予防対策を徹底し、緊急事態宣言期間やまん延防止等重点措置期間は中止とした。

(1) 障害児通所支援事業（二種事業）

ア 児童発達支援通所支援

一日平均在園(通園)児童43名を目標に、就学前の心身障害児に対して集団参加を通して、生活と遊びを充実させ、健やかな成長、発達をしていくように支援し、併せて就園・就学に向けての基礎作りをした。併行通園児は令和3年度は3名の並行通園児を受け入れた。

・入園児数（定員）	53名	(50名)
・年間新入園児童数	22名	(17名)
・年間退園児童数	21名	(19名)
・年間延在園（通園）児童数	9,321名	(9,229名)
・一日平均在園（通園）児童数	39.3名	(38.5名)

疾病別人員

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

病 名	年間取扱実人員 (名)	構成比 (%)
脳 性 麻 痺	2	3.8
自閉スペクトラム症	27	50.9
精神遅滞(発達遅滞を含む)	5	9.4
染色体異常(ダウン症他)	8	15.1
その他	11	20.8
計	53	100.0

月別在園児童数 (年間通所日数 237 日)

年 月	在籍者数	延 人 数
2年 4月	49	832
5月	50	684
6月	50	879
7月	51	807
8月	51	722
9月	51	707
10月	52	865
11月	52	807
12月	52	756
3年 1月	53	709
2月	53	651
3月	53	902
合 計	617	9,321
月平均	51.4	776.8
一日平均		39.3

イ 保育所等訪問支援

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
保育所等訪問支援	15 件	14 件	11 件
訪問支援	／件	101 件	54 件
来所相談	／件	62 件	36 件
電話相談	／件	682 件	484 件

(2) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業(二種事業) (指)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
障害児支援利用計画(モニタリング含む)	175 件	165 件	175 件
特定計画相談	／件	0 件	0 件
一般相談	／件	142 件	181 件
電話相談	／件	1,346 件	1,677 件
訪問支援	／件	155 件	217 件
その他	／件	226 件	156 件

(3) その他 地域療育支援事業

ア 親子教室 年間 99回 (月平均 8.25回) 登録者数 135名 (136名)
参加児延数 目標 1,700名 実績 1,263名 (1,433名)

イ 療育相談の実施(随時) 目標 65名 実績 77名 (85名)
一般相談 (電話及び来所) 889名 (458名)

親子教室はコロナ禍での緊急事態宣言、まん延防止等重点措置期間は、市の要請により集合での開催は中止し、その期間は親子教室利用児には個別で療育相談等での対応となった。

親子教室利用児以外の入園前の面談・療育相談は児童発達支援管理責任者が対応した。(9件)

ウ 地域交流等

地域に開かれた通園施設として、地元をはじめ広く市民やボランティア、学生、主婦の方々との交流は、令和3年度もコロナ禍により、地域交流祭りや、交流保育は中止した。ボランティアは散髪奉仕のみ実施、その他のボランティア受け入れは中止とした。実習生受け入れは人数を絞って再開したが、感染状況により中止した期間があった。夏祭りは通園児・保護者のみで分散で実施した。

- ・いこいの家通信発行 12回 (12回) 308部 (306部)
- ・夏祭り参加者 通園児と保護者のみクラス毎で実施 保護者 42名 (0名)
- ・城東保健福祉エリア地域交流まつり中止 0名 (0名)
- ・実習生受入 21名 (0名) 延 49名 (0名)
- ・体験研修受入 0名 (0名) 延 0名 (0名)
- ・ボランティア受入 2名 (0名) 団体 0名 (0名) 延 18名 (0名)

※地域交流祭りはコロナウイルス感染症予防のため中止

11 小 鹿 苑

基本理念

私たちは、ご利用者一人ひとりの声に耳を傾け、真に、ご利用者の立場に立った支援を実践します。

令和3年度目標及び結果

「積極的に小鹿苑の魅力を発信する」

目標1 施設や住み慣れた地域で、安心して生活できるように支援する

- ・感染症対策をしっかりと確立し、実行する
- ・エビデンスに基づき、丁寧で質の高いサービスに努める

結果 感染症対策については、関係機関の協力の仰ぎ、感染者を最小限に留めることができた。

介護技術の標準化を図り、ヒヤリ・ハットの検証を行い、安全な質の高い介護を実践した。

目標2 地域の福祉活動を支える。

- ・「小鹿苑カフェ」を居場所として再構築する
- ・コミュニティソーシャルワーカーを中心に、共に支えあって生きていく「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」に取り組む

結果 新型コロナウイルスの影響により、「小鹿苑カフェ」の開催は1回となった。また、ボランティアの受入れも制限せざるを得なくなった。

目標3 稼働率の向上を図り、安定した運営を目指す

- ・事業計画の目標に向けて、職員一人ひとりが努力する
- ・ICTの導入等により業務の効率化を図り、職員が働きやすい環境を整備する

結果 各事業間で相互に協力し、増収・経費削減に努めた。

ICTを導入し、業務改善・効率化より生産性が高まった。また、ICTの導入により新たな加算を取得した。

目標4 人材を確保し職員のスキルアップに努める

- ・実習生へきめ細かい指導を行い、雇用に繋げる
- ・就職相談会等に参加し、積極的な採用活動を行う
- ・介護技術の向上と標準化により、サービスの質の向上を図る

結果 実習生に対し各課（科）担当者が係るようにし、施設のアピールに努めた。

新型コロナウイルスの影響により、就職相談会等への参加は中止した。オンライン研修等に積極的に参加し、伝達講習により知識・技術を共有した。

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 80名定員（80名）

経営の健全化のため空床率の削減に努めたが、前年度と同様に退所者数が多く、1日の平均利用延人数は微動に留まった。

要介護認定者で、常時介護を必要とし、自宅で生活することが困難な方に対し、適切な健康管理のもとに、良質な施設サービスを提供することができた。

- ・年間新入所者数 28名 (34名)
- ・年間退所者数 27名 (35名)
- ・入所者平均年齢 86.1歳 (86.8歳)
- ・平均介護度 4.18 (4.13)
- ・新規入所申込 53件 (84件)
- ・入所希望者(年度末現在) 81名 (59名)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均延利用人数	79名	79.9名	78.7名

疾病別人員 (令和3年4月1日～令和4年3月31日現在)

病名	年間実人員(名)	構成比(%)
脳卒中等	18	17.1
認知症等	71	67.7
リウマチ、脊椎症等	1	0.9
その他	15	14.3
計	105	100

(2) 老人短期入所事業(二種事業) 定員20名(20名)

昨年度から引き続き、介護度の高い利用者の受入れに対応した。

また、第三次なでしこプランに基づき、虐待高齢者を1名、延べ31日を緊急に受け入れた。

- ・年間延べ利用者数 3,156名 (3,221名)
- ・年間実利用者数 280名 (296名)
- ・利用者平均年齢 89.0歳 (87.6歳)
- ・平均介護度 要介護 3.31 (3.18)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均延利用人数	12名	8.6名	8.8名

(3) 老人デイサービスセンター(通所介護事業)(二種事業) 定員一日35名(35名)

新型コロナウイルス感染症の影響により営業を休止した期間があったが、地域のケアマネジャーとの連携を密にし、利用者の利用回数が増加した。

介護度の高い高齢の利用者が増加し、自主的生活の助長、孤立感の解消、心身機能の維持向上を図った。

- ・年間延べ利用者数 6,158名 (5,712名)
- ・年間実利用者数 573名 (578名)
- ・年間実施日数 308日 (304日)
- ・利用者平均年齢 87.3歳 (87.6歳)
- ・平均介護度 要介護 2.3 (2.1)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均延利用人数	22名	20.0名	18.8名

(4) 老人居宅介護等事業(訪問介護事業)(二種事業)

要介護認定者で日常生活に支障がある方がいる家庭に対し、11人のヘルパーを派遣し、日常生活の支援を行った。認知症で独居の方のサービスご利用希望が増えている。

- ・年間延べ利用者数 2,964名 (3,516名)
- ・年間実利用者数 455名 (449名)
- ・年間活動日数 308日 (309日)
- ・利用者平均年齢 82.6歳 (83.1歳)
- ・平均介護度 要介護 1.82 (1.75)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均延利用人数	17名	9.6名	11.4名

(5) 地域包括支援センター運営事業（公益事業）委

静岡市からの受託事業として、西豊田、東豊田、東源台小学校区の高齢者及び地域住民からの相談解決のために制度やサービスを紹介し、関係機関等につなぐ。

また、介護保険要支援認定者等の予防プラン作成や支援困難ケースの解決のために、関係機関や自治会、民生委員との連携を図り、地域ケア会議を開催した。

- ・年間延べ相談者数 2,267名 (1,924名)
- ・介護予防支援（直営・委託） 3,585件 (3,306件)
- ・介護予防ケアマネジメント（直営・委託） 1,808件 (1,755件)
- ・年間活動日数 308日 (309日)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
月平均数	400件	449.4件	421.8件

(6) 居宅介護支援事業（公益事業）

5名(4名)のケアマネジャーが稼働し、ケアプランを作成した。前年度より継続して地域包括支援センターから予防ケアプランの受託作成を行う等の連携を図った。

また、要介護認定調査については、介護保険の更新期間が3年に延びた事や新型コロナウイルス感染症の影響により、要介護認定調査が中止となった事で、年間21件(28件)と減少した。

- ・年間ケアプラン給付管理者延べ数 2,325名 (2,209名)
- ・ケアプラン新規作成者 83名 (100名)
- ・平均介護度 要支援 1.52 要介護 2.11 (要支援 1.43 要介護 2.15)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
月平均件数	183名	193.7名	184.1名

(7) 介護予防・日常生活支援総合事業（公益事業）

要支援者・事業対象者で日常生活に支障がある方に対して、日帰りで各種サービスを提供する通所介護相当サービス又はホームヘルパーを派遣し日常生活を支援する訪問介護相当サービスを行った。

(通所介護相当サービス)

- ・年間通所相当延べ利用者数 404名 (608名)
- ・年間通所相当実利用者数 69名 (110名)
- ・年間通所相当実施日数 308日 (304日)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
月平均実利用者数	10名	5.8名	9.2名

(訪問介護相当サービス)

- ・年間訪問相当延べ利用者数 2,512名 (1,771名)
- ・年間訪問相当実利用者数 378名 (287名)
- ・年間訪問相当実施日数 308日 (309日)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
月平均実利用者数	30名	31.5名	23.9名

月別在所(利用)者数

(名)

区分	特養		短期		デイサービス		通所相当		ホームヘルパー		訪問相当		地域包括支援センター	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
4月	80	2,337	20	231	50	519	9	48	40	292	30	191	68	114
5月	81	2,511	23	232	52	516	7	44	35	232	31	189	75	136
6月	81	2,428	22	297	48	510	7	45	35	234	31	209	86	152
7月	81	2,501	25	303	45	501	7	46	35	250	31	210	92	132
8月	81	2,511	22	268	47	521	6	35	37	267	31	213	74	134
9月	80	2,430	25	294	45	488	5	28	37	249	30	200	91	181
10月	78	2,473	27	263	48	537	5	30	40	248	30	197	97	204
11月	79	2,356	25	285	50	553	5	28	40	251	32	230	115	281
12月	81	2,461	23	260	47	511	5	25	39	244	33	220	90	248
1月	79	2,504	24	292	48	498	4	22	39	225	32	204	113	258
2月	80	2,210	21	218	46	470	4	22	39	215	34	211	109	210
3月	76	2,439	23	213	47	534	5	31	39	257	33	238	90	217
合計	957	29,161	280	3,156	573	6,158	69	404	455	2,964	378	2,512	1,100	2,267
月平均	79.8	2,430.0	23.3	263.0	47.8	513.2	5.8	33.7	37.9	247.0	31.5	209.3	91.7	188.9
1日平均	79.9		8.6		20.0		1.3		9.6		8.2		7.4	
					21.3				17.8					

(8) 奨学金貸与事業(公益事業)

介護福祉士養成施設で学ぶ1名の外国人に対して奨学金を貸与した。

令和4年度から法人採用、当苑で勤務することになった。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間貸与延べ人数	1名	1名	1名

12 小鹿なでしこ苑

基本理念

あなたがあなたらしく 私が私らしく
～ユニット環境を生かして、個性豊かな生活を支援します～

令和3年度目標及び結果

目標1 感染症対策とサービスの質の向上の両立

- ・感染症対策を業務の一環として浸透させ、安心安全な環境を提供する。
- ・その上で、サービスの質の向上を目指し、日常業務、行事などを見直していく。
- ・ご家族にも安心していただけるように、オンライン面会や月例のお手紙、体調変化時の連絡、看取り期の対応など丁寧な対応をしていく。

結果 2月のコロナウィルスクラスター発症時には、静岡済生会総合病院感染対策室の指示を受けた後、短期間で通常体制に戻すことができ、その後も同室の協力の下、再発予防に努めている。また、法人内施設の相互応援により衛生材料を確保することができた。自宅待機とならなかった職員は心身共に疲労困憊していたが、皆で協力し合い乗り切ることができたことで一体感が強まった。

面会については、静岡県内の感染状況を見ながら対面とオンラインの切り替えを行った。家族への手紙は好評だが、毎月写真を添えているわけではないため、写真を添えてほしいという要望もあった。看取り期の方への面会には柔軟に対応した。

目標2 「なでしこカフェ」の新しい形での開催

- ・感染症対策を前提に、地域の方の意見もうかがいながら、新しい形での開催を目指す。
- ・同時に、地域に内在するニーズの発掘ができるような仕掛けをしていく。

結果 コロナウィルス対策として、「なでしこカフェ」は開催できなかった。再開に向けては、小鹿苑と足並みを揃えていきたい。

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 定員 96名 (96名)

昨年度より入院者数が多く、目標値には届かなかった。重度化が進み平均介護度が上がってきている。

・年間新入所者数	21名	(23名)
・年間退所者数	22名	(21名)
・一日平均入所者数	94.8名	(93.5名)
・入所者平均年齢 (R3.3.31現在)	84.7歳	(84.3歳)
・平均介護度	4.23	(4.15)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均入所者数	94名	94.8名	93.5名

(2) 短期入所事業 (二種事業)**定員 13 名**

実利用者数は年間 3 名で、そのうち 1 名が長期入所になった。

- ・年間延べ利用者数 404 名 (717 名)
- ・一日平均利用者数 1.1 名 (2.0 名)
- ・利用者平均年齢 (R4. 3. 31 現在) 93.0 歳 (92.0 歳)
- ・平均介護度 3.0 (3.79)

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均利用者数	2名	1.1名	2名

月別利用者数**(名)**

	特 養		短 期	
	月末 入所者数	入所者延人数 ※	実人数	利用者 延人数
令和2年4月	95	2,782	2	44
5月	95	2,924	2	47
6月	95	2,824	2	43
7月	95	2,952	1	27
8月	96	2,952	1	31
9月	96	2,877	1	30
10月	96	2,972	1	31
11月	96	2,862	1	30
12月	94	2,962	1	31
令和3年1月	96	2,940	1	31
2月	95	2,655	1	28
3月	95	2,915	1	31
合計		34,617		404
一日平均		94.8		1.1

※介護報酬を算定している人数

(3) 奨学金貸与事業 (公益事業)

介護福祉士養成施設で学ぶ1名の外国人に対して奨学金を貸与した。

令和4年度から法人採用、当園で勤務することになった。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間貸与延べ人数	1名	1名	1名

(4) その他事業 (なでしこプラン)

独居高齢者等の居場所づくりと介護予防を目的とした「なでしこカフェ」を月一回開催する予定であったが、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響で、開催することができなかった。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
年間延べ人数	100名	0名	0名

13 静岡市桜の園

基本理念

「あなたらしさを応援します」

・人権を尊重し、日々有効なサービスを展開します。そして常に生活の豊かさを求めます。

令和3年度目標及び結果

目標1 コロナ禍の中での地域共生のあり方を考え、積極的な情報発信を行い活力のある施設を目指す。

- ・ホームページ等SNSを通じた情報発信を積極的に行い、ご家族等の安心感を得るとともに施設の透明性の確保、認知度の向上に努めます。
- ・地域のイベントが行われる際には、積極的に参加し地域の中で施設の位置づけを高めるように努めます。

結果 ホームページを通じて利用者の生活や活動風景が家族等に伝わるよう努め、年間40回の記事を更新した。インスタグラムでは施設及び周辺写真を中心に掲載してフォロワー数200人を達成し、認知度の向上に努めた。広報誌については昨年度同様に年3回発行し、感染対策の取り組みや職員紹介、経営状況等の報告を行い、家族の安心感を得られるように努めた。

地域との関わりでは2年ぶりに秋桜祭を開催し、規模は縮小したものの地域住民有志によるフラダンスや和太鼓を招待し、また地元の人気店の商品を販売するなどして入所利用者と地域住民との交流を深めることができた。

目標2 サービスの向上に努める。

- ・コロナ禍の中で、入所利用者のストレス軽減を図り、日々の楽しみを充実できるように日課を見直すとともに、職員の負担にも留意し、勤務体制の見直し等も含めて改善していきます。

結果 入所では面会や外出制限がある中、ボッチャ大会やスイーツの日、流しそうめん、花火大会などを催して少しでもストレス軽減が図れるよう努めた。短期入所は緊急事態宣言下でも感染対策を徹底して受け入れを継続し、利用者の要望に応えた。日課の見直しや夜勤等職員の業務改善を進め、整理整頓の当番制や申し送り方法の変更等できることから行った。食事については、昨年度に引き続きリクエストやご当地メニュー・フェアメニュー等バリエーションを増やし、変化のある食事提供をするとともに、その写真を事前に掲示し楽しみ感を持てるようにした。

目標3 施設の安定的な運営を図っていく。

- ・利用者、職員の健康管理に留意し、メンタルヘルス対策や新型コロナウイルス等感染症対策に努めます。
- ・新型コロナウイルスの発生状況を勘案しながら、学校と連携し健康状態を把握し、実習生を受け入れ就職と結びつくよう努めます。
- ・経営状況等について、職員や利用者等にも解りやすい説明をするとともに職員に経営を意識した行動ができるように促します。

結果 利用者や職員の健康管理に留意するとともに、ハラスメントを防ぐコミュニケーション方法としてアンガーマネジメントや※アサーティブ等を学び、またメン

タル不調に備えテスト形式で職員それぞれの心理的傾向の理解や対処法を習得して相手との良好な関係作りや離職・休職予防に努めた。

※自分と相手の両方の気持ちを大切に、互いの意見や主張を肯定すること

実習生は学校等と連携し積極的に受け入れを行い、就職には結びつかなかったが法人や施設の魅力を発信し、継続的な関係構築に努めた。

経営状況等については、利用者会や家族会で説明し、加えて施設の広報誌にも掲載した。職員には会議や研修等で現状説明を行い、節約や利用率の向上などコスト意識を持った行動を呼びかけた。

障害者総合支援法に基づき、障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指し、利用者本位のサービスの提供を基本として利用者との対等な関係を構築する。

サービスの質の向上を図り、利用者の選択に応える。

障害者の個人としての尊厳を重視した福祉サービスの提供を目指す。

(1) 障害者支援施設（一種事業）（定員 80 名）^⑤

ア 施設入所支援（定員 50 名）、施設入所をともなう生活介護（定員 50 名）

感染予防のための面会・外出制限のある中でストレスの軽減を図り、福祉、医療、リハビリ、栄養等多職種が連携し、身体状況、健康状態の把握と対応を怠らず、標準的なサービスの見直しを行い、本人や家族の意向を汲み取りながら支援できるように心がけた。また、作業療法士・理学療法士による集団・個別リハビリを実施し、身体機能の維持に努めた。

- ・年間入所者数 2 名 (0 名)
- ・年間退所者数 1 名 (1 名)
- ・年間延べ在所者数 施設入所支援 17,969 名 (18,054 名)
生活介護 12,889 名 (12,913 名)

一日平均利用人数	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
施設入所支援	49.5 名	49.3 名	49.5 名
生活介護	49.5 名	49.4 名	49.5 名

疾病別人員 (令和3年4月1日 ~ 令和4年3月31日)

病 名	年間実人員 (名)	構成比 (%)
脳血管障害	1	2
脳性麻痺	18	36
脳外傷 (頭部外傷)	5	10
脊髄損傷	3	6
頸髄損傷	4	8
下肢機能障害 (上記以外)	6	12
特定疾病 (難病等)	4	8
その他	9	18
計	50	100

月別在所（利用）者数 （入所支援日数 365 日・入所生活介護日数 261 日） (名)

区 分		入所支援		生活介護		区 分		入所支援		生活介護	
年 月	人数	延べ人数	人数	延べ人数	年 月	人数	延べ人数	人数	延べ人数		
3年4月	50	1,485	50	1,089	10月	50	1,516	50	1,026		
5月	50	1,550	50	1,089	11月	50	1,460	49	1,071		
6月	50	1,482	50	1,087	12月	50	1,515	50	1,125		
7月	50	1,519	49	1,078	4年1月	50	1,507	49	1,021		
8月	50	1,533	50	1,088	2月	49	1,372	49	980		
9月	50	1,495	50	1,096	3月	50	1,535	50	1,139		
合 計						599	17,969	596	12,889		
月平均						49.9	1,497	49.6	1,074		
一日平均							49.3		49.4		

イ 生活介護（通所） 定員 30 名（30 名）

生活介護（通所）では、安全かつ安心して過ごせる場であるために、感染症を持ち込まないよう感染予防に努め、常時介護を必要とする方に身体機能・生活能力の維持、向上のための援助及び創作的活動の機会の提供を行った。

- ・実利用人数 35 名（39 名）
- ・年間延べ利用者数 4,340 名（4,266 名）

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均利用人数	24 名	18.1 名	17.5 名

利用者数調 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

定 員	年 間 新利用者数	年 間 退所者数	年 間 延べ利用者数	一日平均 利用者数
30 名 (30)	2 名 (0)	6 名 (0)	4,340 名 (4,266)	18.1 名 (17.5)

月別利用者数 (年間通所日数 241 日) (名)

年 月	初日 在籍者数	延べ人数	年 月	初日 在籍者数	延べ人数
3年4月	39	377	10月	37	355
5月	36	314	11月	37	372
6月	36	375	12月	37	388
7月	36	328	4年1月	36	356
8月	36	354	2月	36	354
9月	37	336	3月	35	431
合 計		438	438		4,340
月平均		36.5	36.5		361.7
一日平均					18.1

(2) 日中一時支援事業（公益事業）〔生活介護（通所）空床利用〕㊦

日中において一時的な見守りその他の支援を必要とする障害者に対して送迎・入浴・食事のサービスを提供する事業であるが利用者はなかった。

- ・実利用人数 0 名（1 名）
- ・年間延べ利用者数 0 名（41 名）

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均利用人数	空床利用	0名	0.2名

(3) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業） 定員5名（5名）**指**

年間を通じて緊急の要請にも対応し、家族の急な疾病等など地域で暮らす方々のニーズに応じてきた。

担当者会議へもできる限り積極的に出席し、その方の生活像を把握し、他機関との情報共有にも努めた。

- ・実利用人数 28名（28名）
- ・年間延べ利用者数 1,036名（930名）

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均利用人数	4.0名	2.9名	2.6名

月別在所（利用）者数（年間通所日数 365日） (名)

区 分		日中一時		短期入所		区 分		日中一時		短期入所	
年 月	人数	延べ人数	人数	延べ人数	年 月	人数	人数	人数	延べ人数		
3年4月	0	0	17	110	10月	0	0	18	87		
5月	0	0	16	99	11月	0	0	15	85		
6月	0	0	13	92	12月	0	0	14	92		
7月	0	0	14	71	4年1月	0	0	14	100		
8月	0	0	11	65	2月	0	0	11	83		
9月	0	0	10	58	3月	0	0	14	94		
合 計						0	0	167	1,036		
月平均						0	0	13.9	86.3		
一日平均						0	0		2.9		

(4) 静岡市桜の園城北館 障害福祉サービス事業（生活介護）（二種事業）**指**

定員20名（20名）

安全かつ安心して過ごせる場であるために、感染症を持ち込まないよう感染予防に努め、常時介護を必要とする方に身体機能・生活能力の維持、向上のための援助及び創作的活動の機会の提供を行った。また、人混みを避け少人数での公園への外出等に努めている。

- ・実利用人数 18名（18名）
- ・年間延べ利用者数 3,144名（2,970名）

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均利用人数	14.5名	13.0名	12.4名

定 員	年 間 新利用者数	年 間 退所者数	年 間 延べ利用者数	一日平均 利用者数
20名 (20)	1名 (0)	0名 (0)	3,144名 (2,970)	13.0名 (12.4)

月別利用者数（年間通所日数 242日）

（名）

年 月	初日 在籍者数	延べ人数	年 月	初日 在籍者数	延べ人数
3年4月	18	268	10月	18	270
5月	18	232	11月	18	263
6月	18	291	12月	18	261
7月	18	257	4年1月	18	248
8月	18	275	2月	18	247
9月	18	253	3月	18	279
			合 計	216	3,144
			月平均	18	262
			一日平均		13.0

14 静岡市心身障害者ケアセンター

基本理念

一人ひとりが地域の一員として自立した日常生活を営むことができるよう、利用者が主役となり地域福祉に貢献できる施設を目指します

令和3年度目標及び結果

目標1 多様化する障害や個人の状況に即した適切な対応ができるように努める

結果(1)個人の状況に適した対応や支援の幅を広げるため、担当者会議等に積極的に参加し情報収集・共有するとともに、各機関との連絡体制の強化に努めた。

(2)個人のニーズに即した自立訓練のプログラムを作成し、自立訓練終了後の就労や適切な障害福祉サービス事業所等を提案できるように努めた。

移行先	就労継続支援B型	5名	生活介護	4名	介護保険	1名
	生活訓練	1名	機能訓練	1名	一般就労	1名

(3)利用者の障害の種別等に即した適切な対応ができるよう、職員の研修への積極的な参加を進めた。

職員研修参加回数	目標：30回	延べ参加者数	70名
	結果：36回(25回)	延べ参加者数	127名(99名)

目標2 利用者一人ひとりの自立した地域生活につなげる

結果(1)在宅生活に必要なリハビリ(歩行訓練、筋力維持向上訓練等)を提供し、安心して日常生活を営むことができるように努めた。

延べ利用者数：自主トレーニング	1,255名(1,056名)
：リハビリ	1,920名(1,388名)

(2)長い間自宅だけで過ごされてきた利用者により地域で生活する能力向上のための訓練(家事訓練、園芸等)を行い、自立した日常生活を営むことができるように努めた。 延べ利用者数：社会適応訓練3,438名(656名)

目標3 利用者の意向にできる限り沿ったサービス提供に努める

結果(1)希望する自立訓練の日数を利用できるよう努めた。

(2)訓練、送迎、入浴の見直しを随時行い、満足いただける環境づくりに努めた。

利用者アンケートのサービス満足度	目標：85%以上	結果：88%(89%)
------------------	----------	-------------

目標4 利用率向上に努める

結果(1)リハビリ病院、計画相談事業所、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に定期的に訪問等を実施し、自立訓練の役割・必要性を周知し、新規利用者の受け入れを促進した。

(2)介護保険併用の利用者も機能訓練が可能な場合があるため、事業所訪問等を通してケアマネジャーと連携し、利用に繋げた。

紹介人数	リハビリ病院	1名	相談支援事業所	27名
	居宅介護支援事業所	2名	グループホーム	1名

その他の取組 トレーニング機器の購入
(バランスマシーン、足漕ぎ装置、サイクリングマシーン、

5 感染症対策の強化に努める

- 結果** (1)職員向けに感染症対策のための Web 研修等に積極的に参加し、実践に繋げた
 (2)利用者向けにイラストなどを使用し、分かりやすい感染症対策を講じた
 (3)「感染症発生時 BCP」を必要に応じて更新し、実態に即した対応ができるように備えた

感染症対策 感染対策用品の購入 (CO2 センサー、パーテーション)、
 毎日検温 2 回実施、朝礼時にイラスト付き感染対策の呼びかけ、
 定期消毒等

静岡市心身障害者ケアセンターは、静岡市の指定管理者として自立訓練事業（機能訓練・生活訓練）を実施しており、自立訓練のサービス支給期間が終了した後、継続利用を希望される方については、空席利用として日中一時支援事業を実施した。

指定管理期間の 2 年目である令和 3 年度は、特定の相談支援事業所等からの利用相談が増え、その結果新規利用につながるケースが多かった。ほとんどが限られた相談支援事業所との関係性だったということがわかる。

コロナ渦が継続する中、まん延防止等重点措置期間中も、訪問支援、電話対応、感染対策を継続し事業継続に努めた。

引き続き利用者の要望にできる限り応えることができるように、更なるサービスの向上と利用者確保に努めた。また、事業所内のレイアウトや利用時間内の過ごし方を変更し、できる限りニーズに対応できるように努めた。

併設の障害者生活支援センター城東は、静岡市障害者等相談支援事業として静岡市より委託を受け、委託支援事業及び特定相談・障害児相談支援事業を実施した。

(1) 障害福祉サービス事業⑥

ア 自立訓練（機能訓練）（二種事業）（定員 20 名）

機能訓練の利用者は、身体機能の維持・向上、生活上の必要な訓練を、静岡済生会療育センター令和から訓練スタッフの派遣を受けて実施した。

区 分	令和 3 年度計画・目標	令和 3 年度実績	令和 2 年度実績
一日平均利用者数	9 名	7.9 名	5.8 名

月別利用者数（年間開所日数 239 日）

区 分 年 月	機能訓練		区 分 年 月	機能訓練	
	実人員(名)	延人数(名)		実人員(名)	延人数(名)
3 年 4 月	16	110	4 年 1 月	23	179
5 月	17	97	2 月	22	193
6 月	18	122	3 月	23	239
7 月	18	122	合 計		1,897
8 月	19	121	月平均		158
9 月	22	148	一日平均		7.9 (5.8)
10 月	19	175			
11 月	19	185			
12 月	22	206			

イ 自立訓練（生活訓練）（二種事業）（定員 10 名）

生活訓練の利用者は、地域生活や環境面での困難さを抱えて生活されている方等、障害特性による配慮の必要な方が利用された。

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均利用者数	9名	7.5名	5.6名

月別利用者数（年間開所日数 239 日）

生活訓練			生活訓練		
区 分	生活訓練		区 分	生活訓練	
年 月	実人員(名)	延人数(名)	年 月	実人員(名)	延人数(名)
3年4月	17	114	4年1月	25	163
5月	15	98	2月	25	177
6月	16	112	3月	27	212
7月	18	130	合 計		1,801
8月	17	162	月平均		150
9月	16	126	一日平均		7.5 (5.6)
10月	20	157			
11月	21	172			
12月	22	178			

(2) 日中一時支援事業（公益事業）（空席利用）㊦

事前予約制に切り替えた。自立訓練終了後、ご利用希望の方を受け入れた。

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均利用者数	7.5名	5.9名	7.1名

月別利用者数（年間開所日数 239 日）

日中一時支援			日中一時支援		
区 分	日中一時支援		区 分	日中一時支援	
年 月	実人員(名)	延人数(名)	年 月	実人員(名)	延人数(名)
3年4月	43	168	4年1月	20	67
5月	40	132	2月	19	65
6月	41	164	3月	16	59
7月	41	147	合 計		1,430
8月	38	154	月平均		119.1
9月	35	120	一日平均		5.9 (7.1)
10月	30	139			
11月	30	118			
12月	24	97			

(3) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業（二種事業）㊧

ア 障害者等相談支援事業

障害者生活支援センター城東は、身体障害を中心に在宅の障害者・家族の相談に関わり、必要な機関との連絡・調整を行い、支援を行った。

(ア)年間相談延べ件数 3,660件 (内、ピアカウンセリング46件) (3,407件)
 年間相談延べ人員 640名 (内、ピアカウンセリング19名) (808名)

(年間開所日数 242日) ※カウント方法変更

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均延べ件数	8件	8.6件	14件

(イ) その他の活動 身体障害者生活支援事業		107回 (140回)
・社会資源を活用するための支援 (外出支援等)		67回 (83回)
・社会生活力を高めるための支援 (パソコン教室)		40回 (57回)
(ウ) 参加会議 主催した個別支援会議		37回 (15回)
参加した個別支援会議		36回 (13回)
連絡調整会議等		20回 (23回)

イ 障害福祉サービス等の利用計画の作成 (特定相談・障害児相談支援)

障害者生活支援センター城東は、静岡市の「指定相談支援事業所」として、障害福祉サービスの利用 (身体・知的・精神) に関するサービス利用計画書及びモニタリングを作成した。

サービス等利用計画及びモニタリング作成件数 (年間開所日数 242日)

区 分	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均延べ件数	45件	44.8件	42.4件
年間件数	540件	537件 ※内児童 18件	509件 ※内児童 4件

15 ワーク春日

基本理念

明るく楽しく働くあなたを応援します。

令和3年度目標及び結果（就労継続B型事業所）

目標1 経営の安定を図る

- ・利用者の確保に努め1日平均26名以上の利用を目指す
- ・作業環境の改善・利用者の健康管理を行い出席率の向上を図る

結果 前半は新型コロナウイルスの影響もあり、見学・体験などを控えたため、新規利用の確保ができなかった。11月より見学・体験を受け、利用者は4名増えている。今後も2名の新規利用を予定している。

目標2 利用者の全員送迎を目指しサービスの充実の努める

- ・利用者確保の一環として可能な限り利用者全員の送迎を行い、利用しやすい環境の整備を行うとともに、新規の利用者の確保に繋げる

結果 送迎を希望する利用者に関しては、送迎が可能となっている。今後、自家通所できる方しか利用できなくなるため、車両のリースなども検討したい。

目標3 工賃の向上を目指す

- ・点字印刷では新たな受注を増やす様努力し、また既存の軽作業では作業効率を向上させ、受注量を増やす等の工夫により工賃の向上を目指す。

結果 点字印刷に関しての受注は見込めず、印刷関係の受注を再開した。軽作業に関しては、利用者が増えるとともに作業効率も上がってきたため、受注量も増えてきている。

目標4 「済生会障がい者就労支援協議会」の当番県としての役割を担う

- ・2年度予定していた「済生会障がい者就労支援協議会」がコロナ感染症の拡大により延期となったため、引き続き開催当番県として会議の運営及び協議会での検討課題の取り纏めを行う。

結果 令和3年度はZOOMによる研修や会議が行われた。「済生会障がい者就労御支援協議会」の今後の運営の在り方については未定である。

(1) 就労継続支援事業B型（二種事業）（定員 30 名）

昨年度から利用者数が減り、新規利用者の獲得に向け相談支援の事業所や包括支援センターを訪問した。前半は新型コロナウイルス感染症のリスク軽減のため、見学・体験を控えていたが、9月より見学を再開し、新規利用へと繋がっている。

軽作業については昨年度よりも多く受注があるとともに、印刷関係の請負も再開し、前年度よりも平均工賃を上回ることができた。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均利用人数	26名	23.4名	23名
平均工賃月額	—	16,973円	15,402円

●月別利用者数 (名)

	利用登録者数	新規利用者数	退所者数	開所日数	利用延べ人数	一日平均利用者数
3年4月	28			21	454	21.6
5月	28			18	392	21.8
6月	28			22	499	22.7
7月	28			19	444	23.4
8月	28			20	441	22.1
9月	28			20	454	22.7
10月	29	1		21	491	23.4
11月	30	1		20	487	24.4
12月	30			20	482	24.1
4年1月	32	2		19	485	25.5
2月	32			18	448	24.9
3月	31		1	22	538	24.5
合計	---	4	1	240	5,615	23.4

●障害別利用者数（令和3年4月から令和4年3月） (名)

		男	女	合計	(備考)
身体障害	視覚	0	5	5	知的との重複1名
	聴覚	1	-	1	
	肢体不自由	14	3	17	知的との重複1名
	内部	2	-	2	
知的障害		2	3	5	身体との重複1名 精神との重複1名
精神障害		2	2	4	
合計		20	13	33	

(2) 福祉ホーム事業（二種事業）（定員 6 名）

コロナ渦ということもあり自宅へ戻られる方が2名いた。新規の問い合わせもなく、今後、福祉ホームの在り方を静岡市とともに検討していきたい。

	令和3年度計画・目標	令和3年度実績	令和2年度実績
一日平均利用人数	4名	3.5名	4.0名

16 静岡済生会看護専門学校

基本理念

済生の精神にもとづき、対象となる人間を生命尊厳や個人が尊重されるかけがえのない存在として捉え、それぞれの健康段階にある人に看護が実践できるような専門職業人を目指す。

令和3年度目標及び結果

目標1 看護師としての基礎的能力の育成と、済生の理念を基にした看護が実践できる学生を育成する

結果 学校の魅力の情報発信を工夫し、学生確保に努めた。また、済生の精神を講義・実習の中で常に意識させ、看護師としての基礎的能力の育成の関わりを学年目標・個別性を視野に入れて、積み重ねた。

目標2 看護師国家試験の全員合格を目指す

結果 学年ごとの教育目標と看護師国家試験を視野に入れ、3学年の学習効果を評価しながら、学習方法を工夫した。結果、卒業生32名全員の看護師国家試験の合格結果が得られた。

目標3 講義・演習・実習へと学生自身が学びを継続し、深めるよう、講義内容を工夫する。また、教育目標を達成できるよう臨床と協働する

結果 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、講義・臨地実習が困難な状況があった。しかし、遠隔授業の導入、臨床に最大限近づけた学内実習と臨床の協力を得て、教育目標に掲げた看護に必要な知識・技術・人間性を養った。

目標4 教員の経験に応じた教育研修・臨床研修を行い、教育力の向上及び人材育成を図る

結果 教員の長期研修に2名を参加させた。また、授業検討を行い教員の教育力の向上に努めた。

目標5 令和4年度第5次カリキュラム改正（厚生労働省所管）に対応した新カリキュラムを構築する

結果 カリキュラム改正の取り組みは、改正趣旨を盛り込み、済生会の強みを活かした教育課程を作成し、県の承認を受けた。

(1) 学年別在籍者数（定員 120名）

区分	1年次生	2年次生	3年次生	計
令和3年度実績	44名	40名	35名	119名
令和2年度実績	41名	37名	36名	114名

(2) 看護師国家試験結果

(名・%)

	令和3年度実績			令和2年度実績		
	受験者数	合格者数	合格者率	受験者数	合格者数	合格者率
静岡済生会看護専門学校	32	32	100.0	34	34	100.0
県内看護専門学校(3年課程)	-	-	95.8	-	-	98.5

県内看護専門学校の合格率は、新卒者の合格率である。

令和3年度の全国(3年課程、新卒)の合格率は96.5%

(3) 卒業生の進路

(名)

区 分	令和3年度実績	令和2年度実績
済生会総合病院	30	28
その他県内病院	2	3
県外病院	0	2
進 学	0	0
そ の 他	0	1
計	32	34

(4) 入学試験結果

(名)

区 分		令和4年度	令和3年度
受験者	推薦入試	31	28
	社会人入試	11	15
	一般入試	52	101
	計	94	144
合格者	推薦入試	22	22
	社会人入試	1	1
	一般入試	29	34
	計	52	57
入学者	推薦入試	22	22
	社会人入試	1	1
	一般入試	5	21
	計	28	44

17 静岡済生会訪問看護ステーションおしか

基本理念

障害や疾病を持ち、地域で生活している人々に対して、住み慣れた地域で、安心して「その人らしく心豊かな生活」ができるよう、温かく思いやりの心で質の高い看護を提供します。

令3年度目標及び結果

目標1 利用者の要望に沿い、安全、安心と信頼を得られる質の高い看護を提供する。

結果 部署内研修は年間計画に沿って年8回研修を行った。コロナ感染拡大防止の観点から予定通り行えず、日程変更したりリモートや紙面研修に代替したりと工夫しながら行った。他機関の主催する研修については、コロナ感染拡大の状況で対面研修がリモート研修への変更や、日程の変更があったものの、希望する研修には参加できた。また、研修や事例報告会もリモートで行われることが多く、現地までいかなくても研修が受けられる利点からリモート研修の参加が多かった。感染対策については、利用者や家族に対し月一回発行するおたよりに感染対策の記事を載せ、感染対策を呼び掛けた。また、スタッフの訪問前の体調チェックや感染対策の研修により、手技の統一を図り利用者には安心して訪問看護を受けてもらえるようにした。

苦情報告、インシデント、アクシデント報告の徹底を促し、内容についてはスタッフ間で共有し、件数等は年報に掲載した。また、静岡市介護サービス情報公表を行った。

午前中の訪問後にショートカンファレンスを行い、利用者の情報や問題の共有をし、意見交換の場とした。

目標2 利用者・地域のニーズを知り、保健、医療、介護・福祉サービスとの密接な連携を図る。

結果 診療所の医師や多職種との連絡調整を積極的に行ない、必要時は直接出向いて情報交換をした。特に済生会病院の入退院支援室や小鹿苑の居宅部署とは、連携を取り情報交換を密にした。しかし、前年度から続くコロナ禍の影響で紙面でのやり取りが定着してきたこともあり、退院前カンファレンス60件/年、サービス担当者会議55件/年と件数は前年度よりさらに減少している。

今年度も利用者満足度調査を行い、結果として満足78%、やや満足20%と好意的な意見が多かった。また、ご意見の中にはコミュニケーション不足や施設間での申し送りの不備についての指摘があったので、このアンケート結果についてもステーション内で共有し、対策について話し合った。

広報活動として毎月のおたより、年報の発行を行い訪問看護の活動内容を理解して頂くようにした。

目標3 健全で安定した運営をめざす。

結果 体制変更もあり、年度初めの訪問件数が減少し、年間でみると訪問延べ件数16,067件と前年度より約1,000件の減少となった。新規依頼は前年度より21件の増加となったが、短期間利用者の増加や施設入所、病院入院が増え訪問件数は目標達成率86%に留まった。

時間外勤務について、時間外勤務申請用紙による事前申請を徹底し、時間外勤務の短縮に努めた。

目標4 職場環境の充実を図り、人材の確保に努める。

結果 連続休暇、携帯待機明けの有給休暇が取れるよう配慮しほぼ取得できた。非常勤勤務者に対しては、それぞれの希望に沿った勤務時間や勤務日数にし、無理のない勤務に努めている。

サテライトみかど台では、事務所内の整理を行い、個人ロッカー設置等環境整備に努めた。

勉強を兼ねる等の目的で期間を定めて「おしか」と「サテライト」間で人事の交流を図った。

年2回及び必要に応じ個人面接を実施し、職員の就労や生活状況の把握に努めた。

(1) 訪問看護事業実績 * () 内は令和2年度実績

令和3年度は、介護保険、医療保険を含め訪問延件数は16,067件であり、令和2年度に比べ1,002件(介護保険772件減、医療保険357件減、その他127件増)減少した。また、訪問延件数のうち、6,799件(6,831件)は、サテライトみかど台分である。

令和3年度間目標件数 18,500件

令和3年度実績件数

介護保険延べ件数 12,383件 (13,155件)

医療保険 3,497件 (3,854件)

その他(実費訪問) 187件 (60件)

合 計 16,067件 (17,069件)

月平均 件 (1,422.4件) 1日平均 66.1 件 (70.2件)

疾病別

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

病 名	人 員 (名)	構成比 (%)
神経系疾患	42	10.9
呼吸器系疾患	22	5.7
精神障害	34	8.8
脳血管系疾患	15	4.0
骨格系及び結合組織疾患	31	8.0
悪性腫瘍	107	27.7
その他	135	34.9
計	386	100

月別訪問者数

(年間訪問日数 243日)

年 月	取扱実人員 (名)	延 件 数 (件)	
3年	4月	234	
	5月	227	
	6月	233	
	7月	236	
	8月	239	
	9月	249	
	10月	244	
	11月	251	
	12月	245	
	4年	1月	242
		2月	246
		3月	246
計	2,892	16,067	
月平均	241.0	1,338.9	
一日平均		66.1	

年齢別性別訪問者数 (令和3年4月1日～令和4年3月31日) (単位：名)

年齢 性別	～ 59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 ～	合 計
男性	13	6	10	19	25	50	34	32	189
女性	11	6	4	17	20	25	43	71	197

(2) グループホーム等への訪問看護

委託契約したグループホーム1施設に週1回の訪問をし、入居者の日常的な健康管理及びグループホーム職員からの相談への対応、また、必要に応じ医師との連絡調整及び指示書の発行を受け、医療処置等の訪問看護を行った。

(3) 静岡市立こども園等医療的ケア児受入業務

静岡市からの委託で、医療的ケア児受入業務を1名の児に対して行った。

新生児から、関わっている児がこども園に入園したのを機に今まで自宅で行ってきた処置をこども園に行き実施出来るよう静岡市と委託契約をした。